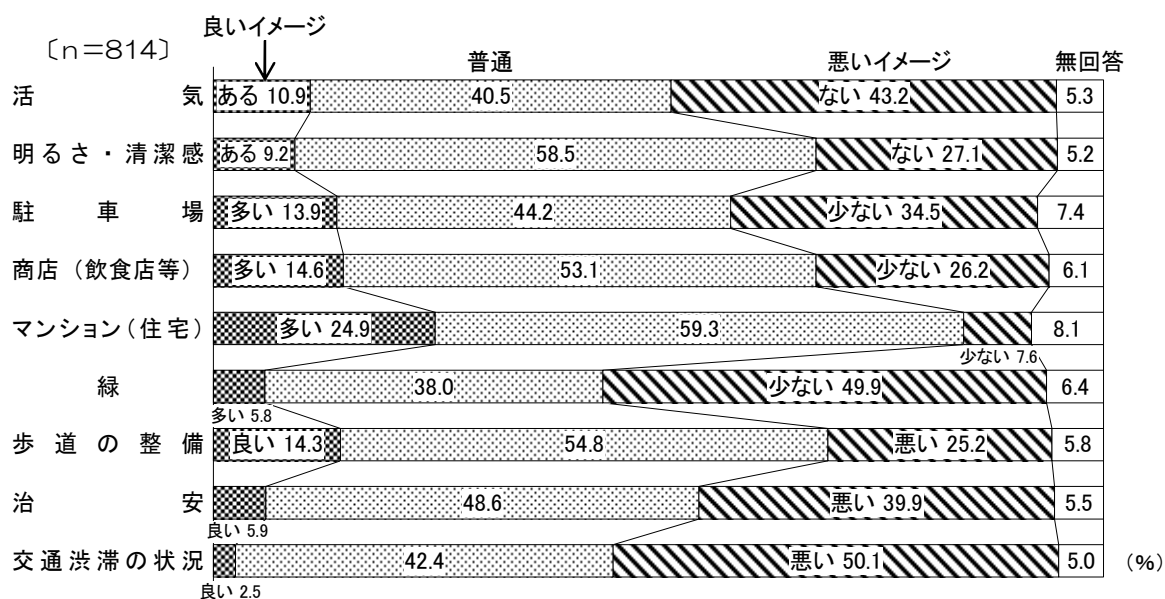


14 まちづくり

(1) 本厚木駅周辺のイメージ（B：問 17）

問. 現在の本厚木駅周辺（中心市街地）のイメージについて、該当するものに○印を付けてください。

図 14-1-1 本厚木駅周辺のイメージ



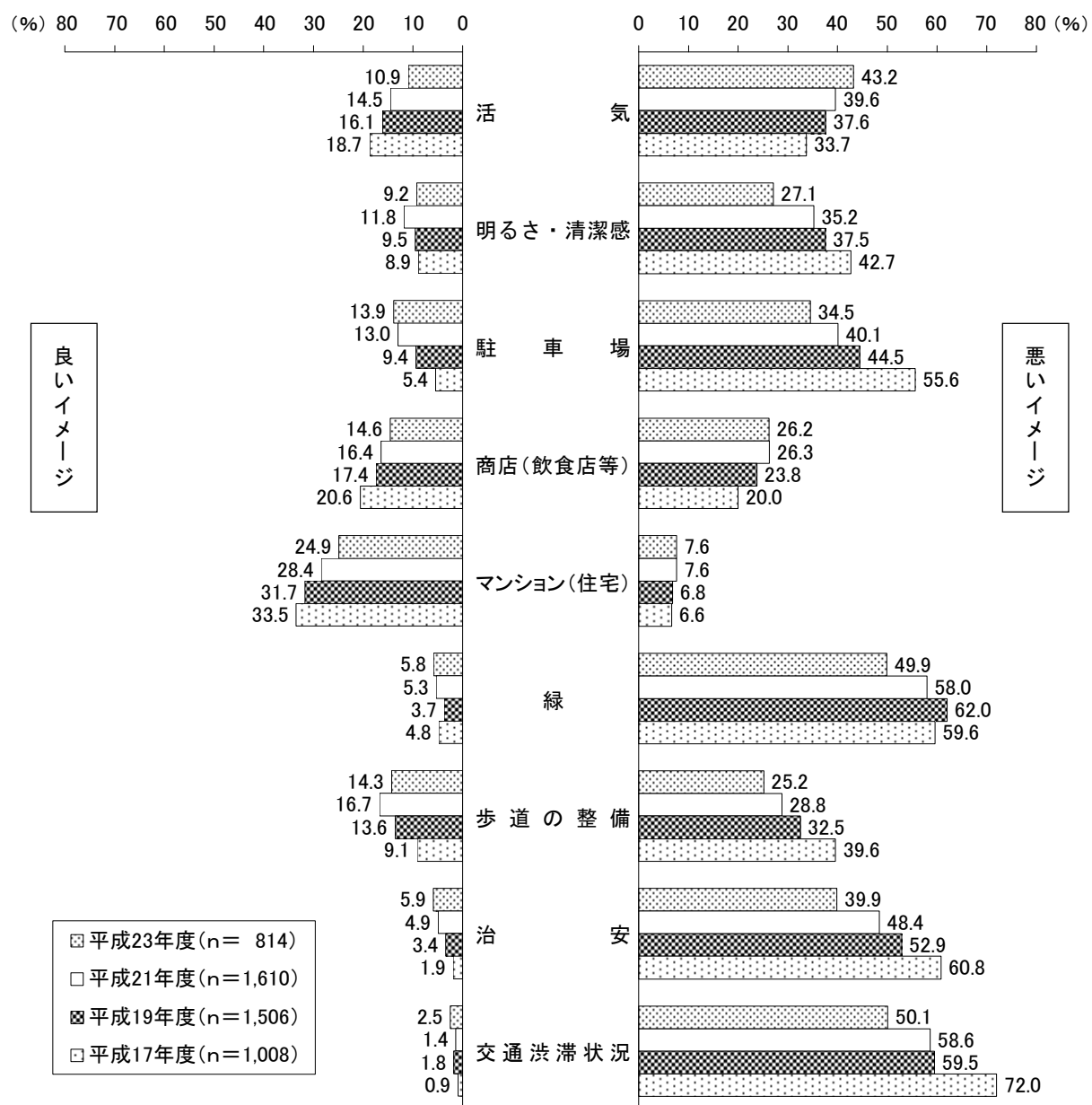
【全体】

現在の本厚木駅周辺（中心市街地）のイメージについて、9つの項目ごとに聞いたところ、良いイメージが高いのは「マンション（住宅）」（24.9%）で、良いイメージが悪いイメージを上回っているのはこの項目だけである。また、悪いイメージが最も高いのは「交通渋滞の状況」（50.1%）で、次いで「緑」（49.9%）、「活気」（43.2%）、「治安」（39.9%）、「駐車場」（34.5%）となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査、前々々回調査との比較をみると、良いイメージで増加傾向となっているのは「駐車場」・「治安」であり、悪いイメージで増加傾向となっているのは「活気」である。

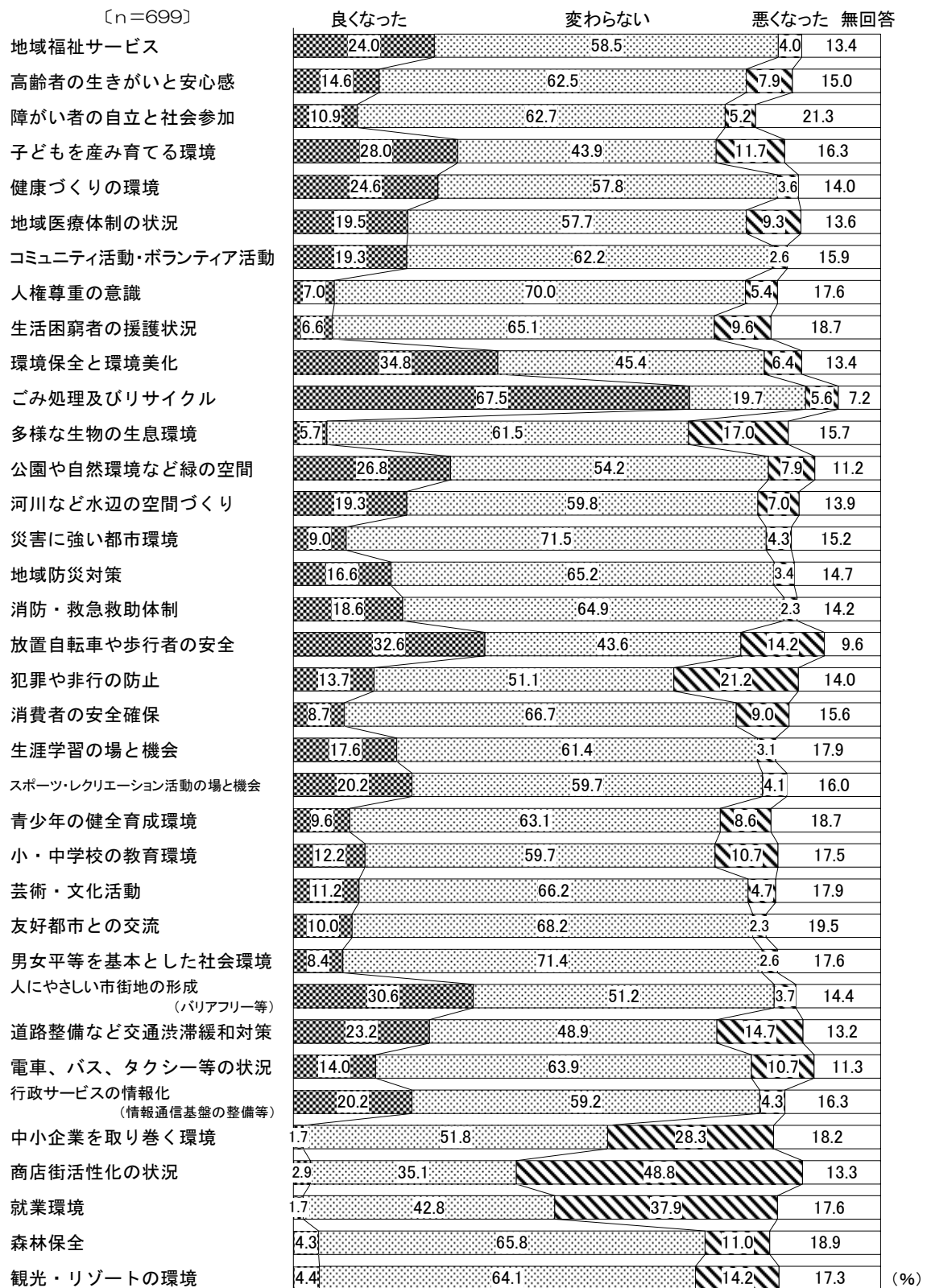
図 14-1-2 本厚木駅周辺のイメージ経年変化



(2) まちづくり全般の変化（B：問1）

問. 5年前と比べたまちづくり全般の変化について、該当欄に○印を記入してください。
（厚木市に転入されて5年未満の方は、問2へお進みください。）

図 14-2-1 まちづくり全般の変化



【全体】

5年前と比べて、現在のまちづくりがどのように変化したと思うか、36の項目ごとに聞いた。

「良くなった」は、『ごみ処理及びリサイクル』（67.5%）が7割近くで最も高くなっている。次いで、『環境保全と環境美化』（34.8%）、『放置自転車や歩行者の安全』（32.6%）、『人にやさしい市街地の形成（バリアフリー等）』（30.6%）、『子どもを産み育てる環境』（28.0%）となっている。

「悪くなった」は、『商店街活性化の状況』（48.8%）が5割近くで最も高くなっている。次いで、『就業環境』（37.9%）、『中小企業を取り巻く環境』（28.3%）、『犯罪や非行の防止』（21.2%）、『多様な生物の生息環境』（17.0%）となっている。

「変わらない」は、『災害に強い都市環境』（71.5%）、『男女平等を基本とした社会環境』（71.4%）、『人権尊重の意識』（70.0%）で7割以上になっている。

表 14-2-1 まちづくり全般の変化－上位5項目

(n=699)

(%)

順位	良くなった		変わらない		悪くなった	
1	ごみ処理及びリサイクル	67.5	災害に強い都市環境	71.5	商店街活性化の状況	48.8
2	環境保全と環境美化	34.8	男女平等を基本とした社会環境	71.4	就業環境	37.9
3	放置自転車や歩行者の安全	32.6	人権尊重の意識	70.0	中小企業を取り巻く環境	28.3
4	人にやさしい市街地の形成 (バリアフリー等)	30.6	友好都市との交流	68.2	犯罪や非行の防止	21.2
5	子どもを産み育てる環境	28.0	消費者の安全確保	66.7	多様な生物の生息環境	17.0

【経年変化】

良くなったものでは、『ごみ処理及びリサイクル』が一貫して1位となり、前回調査より16.0ポイント高くなっている。

変わらないものでは、前回4位だった『災害に強い都市環境』が1位、前回1位だった『友好都市との交流』が4位となっている。

悪くなったものでは、前回に引き続き『商店街活性化の状況』が1位となり、前回調査より5.5ポイント高くなっている。また、順位は変わらないが『犯罪や非行の防止』が6.0ポイント低く、『多様な生物の生息環境』が5.8ポイント低くなっている。

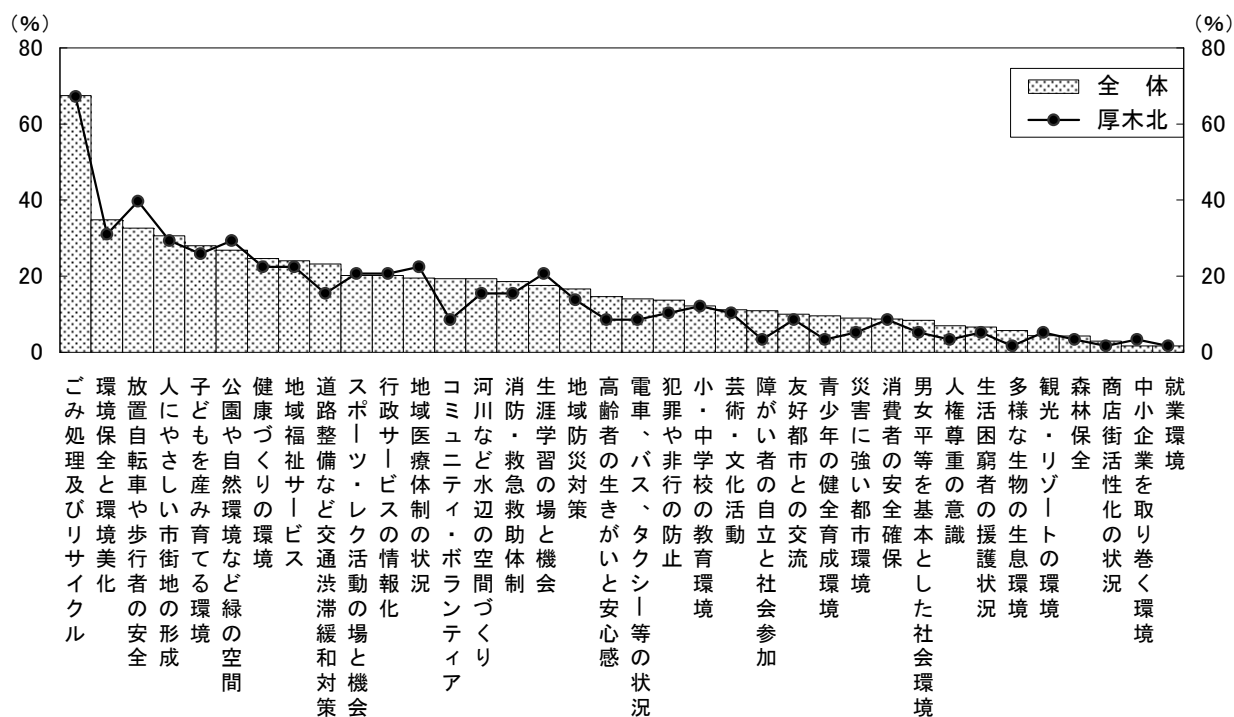
表 14-2-2 まちづくり全般の変化—経年変化

		(%)							
評価	順位	平成23年度 (n=699)		平成21年度 (n=1,610)		平成19年度 (n=1,506)		平成17年度 (n=1,008)	
良くなったもの	1	ごみ処理及びリサイクル	67.5	ごみ処理及びリサイクル	51.5	ごみ処理及びリサイクル	46.7	ごみ処理及びリサイクル	53.1
	2	環境保全と環境美化	34.8	人にやさしい市街地の形成 (バリアフリー等)	33.3	人にやさしい市街地の形成 (バリアフリー等)	31.3	地域福祉サービス	27.6
	3	放置自転車や歩行者の安全	32.6	環境保全と環境美化	31.2	放置自転車や歩行者の安全	28.8	消防・救急救助体制	27.0
	4	人にやさしい市街地の形成 (バリアフリー等)	30.6	放置自転車や歩行者の安全	29.6	環境保全と環境美化	25.6	人にやさしい市街地の形成 (バリアフリー等)	26.5
	5	子どもを産み育てる環境	28.0	公園や自然環境など緑の空間	27.5	公園や自然環境など緑の空間	24.8	地域防災対策	24.0
変わらないもの	1	災害に強い都市環境	71.5	友好都市との交流	71.9	男女平等を基本とした社会環境	66.3	男女平等を基本とした社会環境	71.4
	2	男女平等を基本とした社会環境	71.4	男女平等を基本とした社会環境	71.4	友好都市との交流	65.7	人権尊重の意識	70.0
	3	人権尊重の意識	70.0	人権尊重の意識	71.2	災害に強い都市環境	64.9	災害に強い都市環境	69.6
	4	友好都市との交流	68.2	災害に強い都市環境	69.3	芸術・文化活動	63.9	観光・リゾートの環境	69.4
	5	消費者の安全確保	66.7	芸術・文化活動	68.5	観光・リゾートの環境	63.4	生活困窮者の援護状況	69.3
悪くなったもの	1	商店街活性化の状況	48.8	商店街活性化の状況	43.3	商店街活性化の状況	44.2	犯罪や非行の防止	54.2
	2	就業環境	37.9	就業環境	36.8	犯罪や非行の防止	36.4	商店街活性化の状況	48.0
	3	中小企業を取り巻く環境	28.3	中小企業を取り巻く環境	27.5	地域医療体制の状況／多様な生物の生息環境	26.2	放置自転車や歩行者の安全	33.3
	4	犯罪や非行の防止	21.2	犯罪や非行の防止	27.2			道路整備など交通渋滞緩和対策	32.9
	5	多様な生物の生息環境	17.0	多様な生物の生息環境	22.8	子どもを産み育てる環境	25.5	就業環境	29.7

〔厚木北地区〕

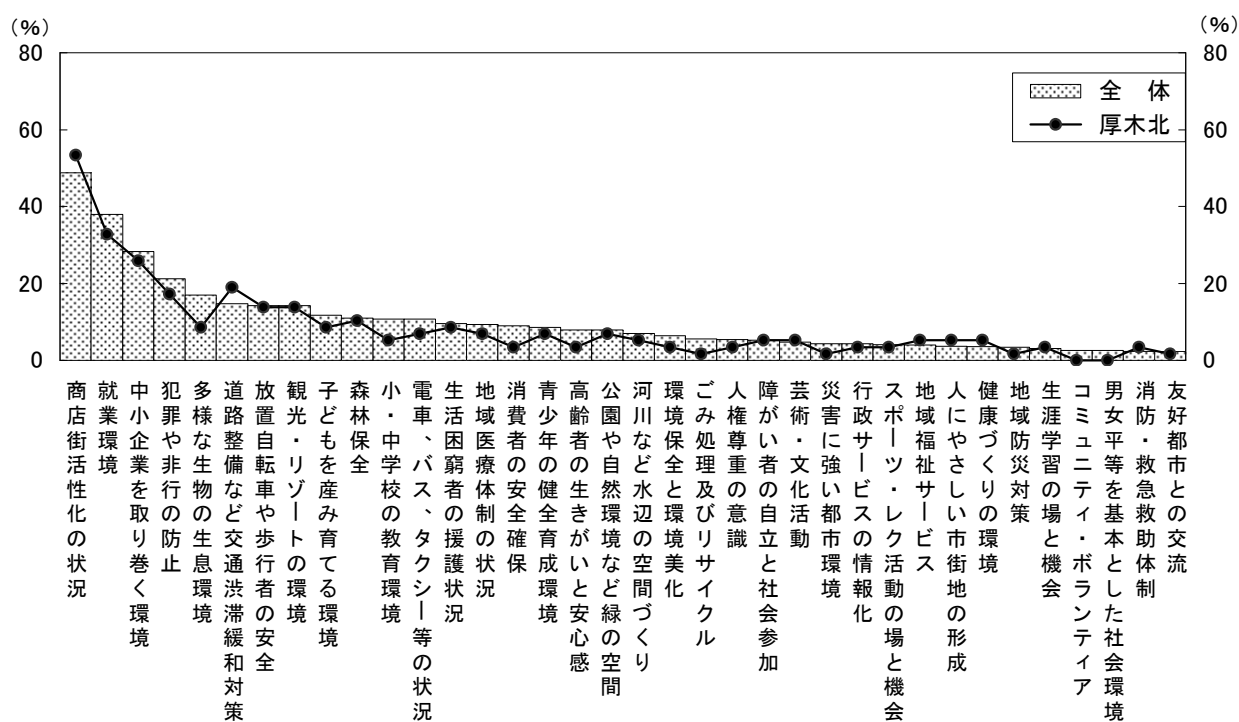
良くなったものでは、全体と比べて『放置自転車や歩行者の安全』が高くなっている。一方、『コミュニティ・ボランティア』が特に低くなっている。

図 14-2-2 まちづくり全般の変化－厚木北地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『就業環境』、『多様な生物の生息環境』、『小・中学校の教育環境』、『消費者の安全確保』が低くなっている。

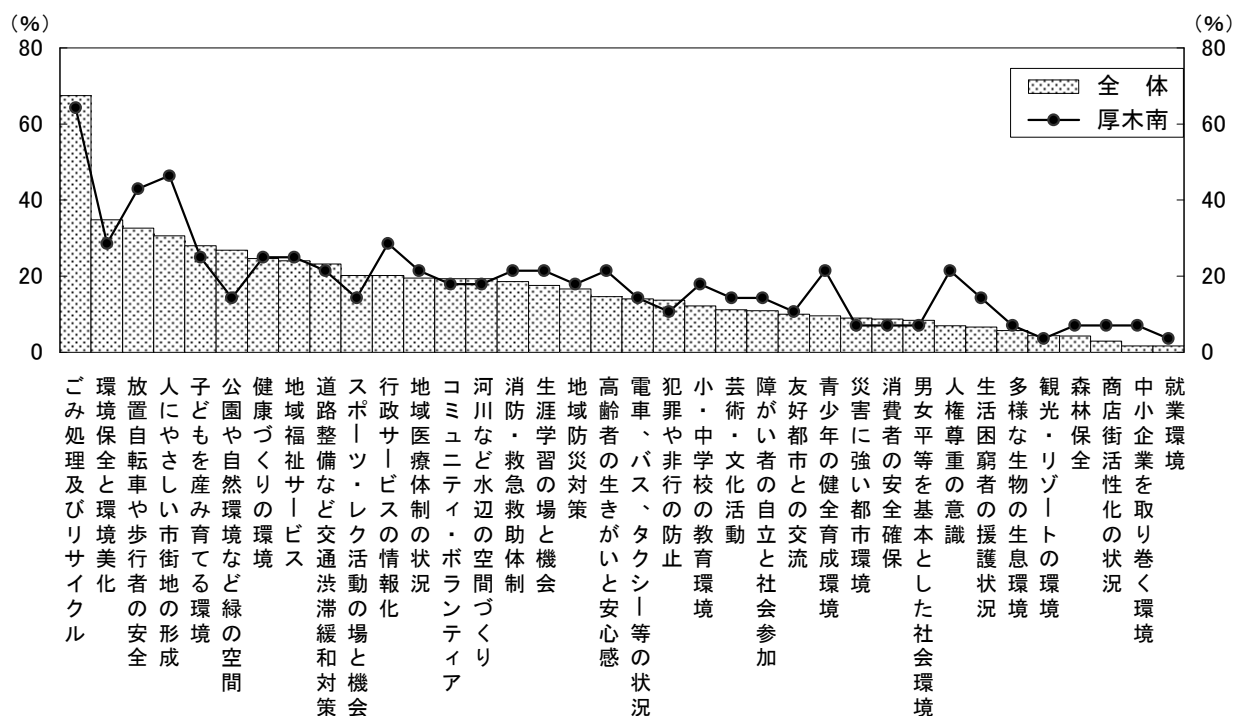
図 14-2-3 まちづくり全般の変化－厚木北地区（悪くなったもの）



〔厚木南地区〕

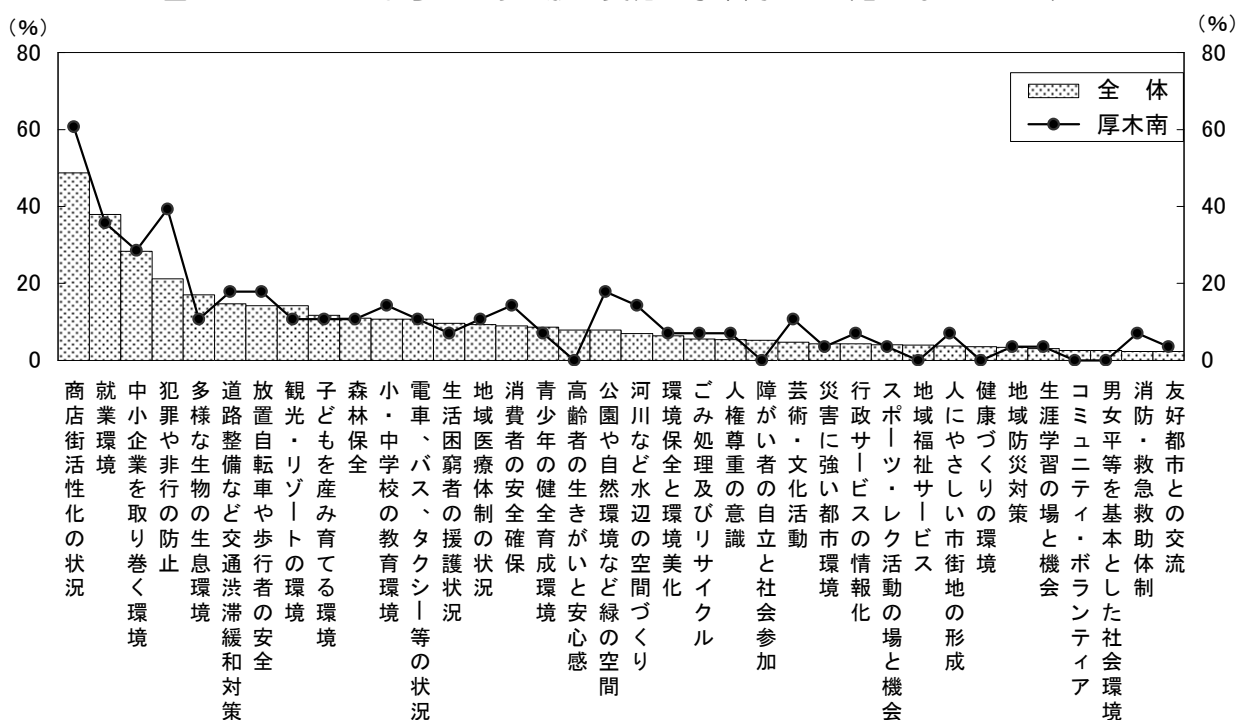
良くなったものでは、全体と比べて『放置自転車や歩行者の安全』、『人にやさしい市街地の形成（バリアフリー等）』、『青少年の健全育成環境』、『人権尊重の意識』が特に高くなっている。一方、『公園や自然環境など緑の空間』が特に低くなっている。

図 14-2-4 まちづくり全般の変化－厚木南地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『商店街活性化の状況』、『犯罪や非行の防止』、『公園や自然環境など緑の空間』が特に高くなっている。一方、『多様な生物の生息環境』、『高齢者の生きがいと安心感』、『障がい者の自立と社会参加』が低くなっている。

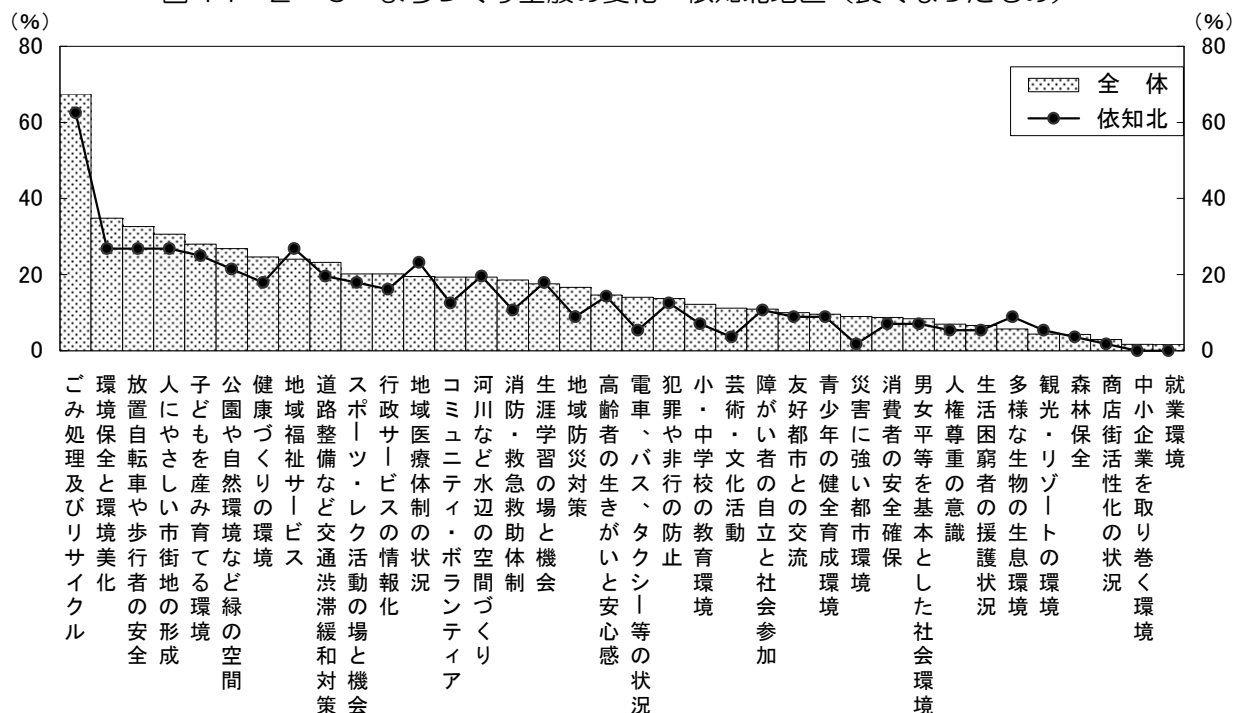
図 14-2-5 まちづくり全般の変化－厚木南地区（悪くなったもの）



〔依知北地区〕

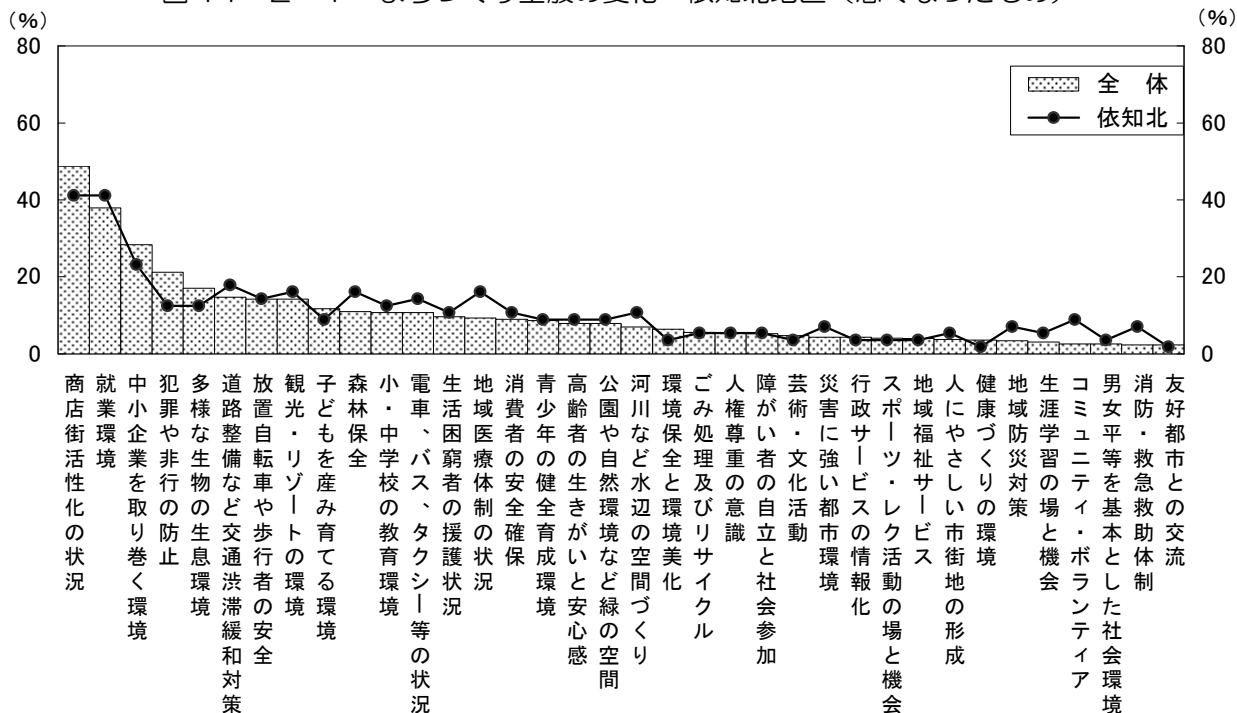
良くなったものでは、全体と比べて『地域福祉サービス』、『地域医療体制の状況』が高くなっている。一方、『環境保全と環境美化』、『消防・救急救助体制』、『地域防災対策』、『電車、バス、タクシー等の状況』などが低くなっている。

図 14-2-6 まちづくり全般の変化－依知北地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『森林保全』、『地域医療体制の状況』が高くなっている。一方、『商店街活性化の状況』、『中小企業を取り巻く環境』、『犯罪や非行の防止』が低くなっている。

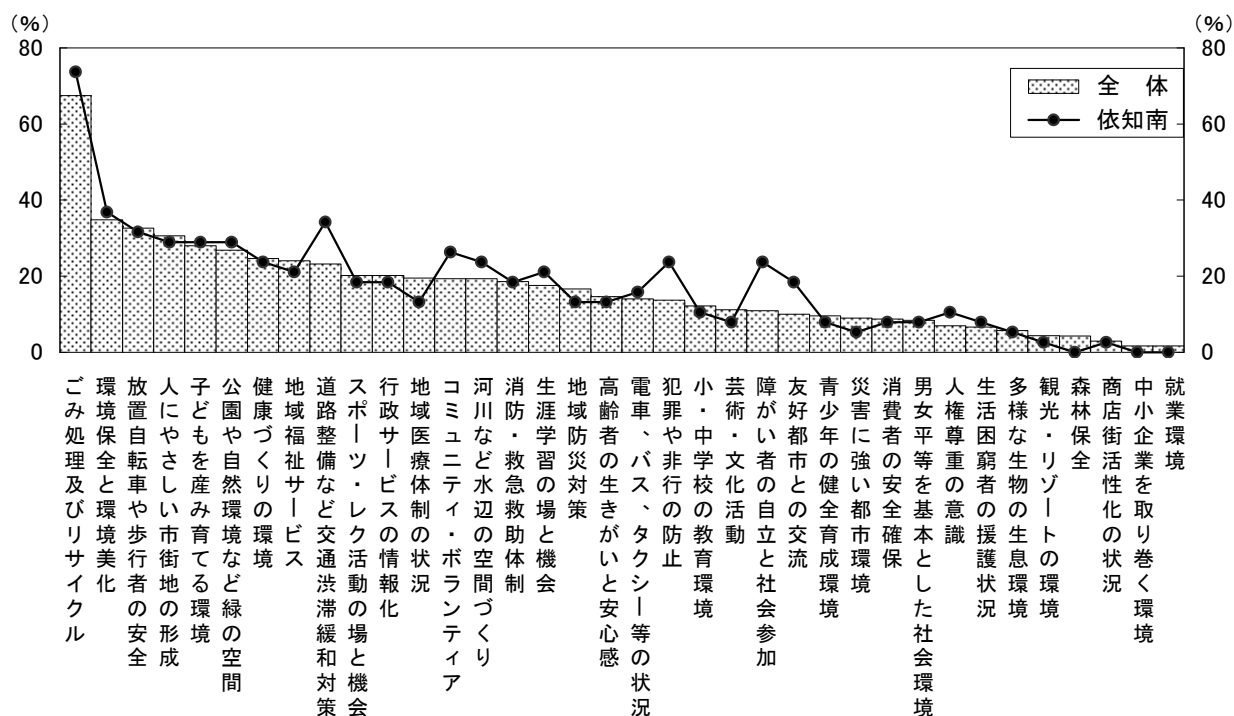
図 14-2-7 まちづくり全般の変化－依知北地区（悪くなったもの）



〔依知南地区〕

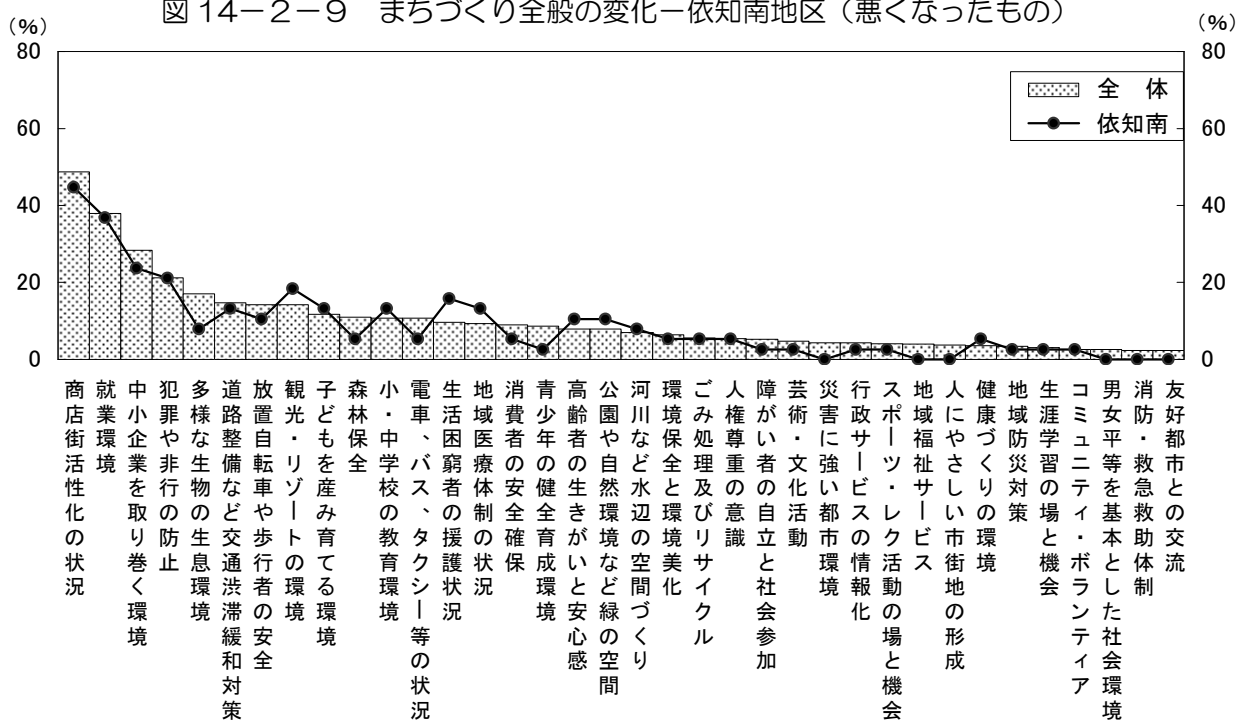
良くなったものでは、全体と比べて『道路整備など交通渋滞緩和対策』、『犯罪や非行の防止』、『障がい者の自立と社会参加』が特に高くなっている。一方、『地域医療体制の状況』が低くなっている。

図 14-2-8 まちづくり全般の変化－依知南地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『生活困窮者の援護状況』が高くなっている。一方、『多様な生物の生息環境』、『森林保全』、『電車、バス、タクシー等の状況』、『青少年の健全育成環境』が低くなっている。

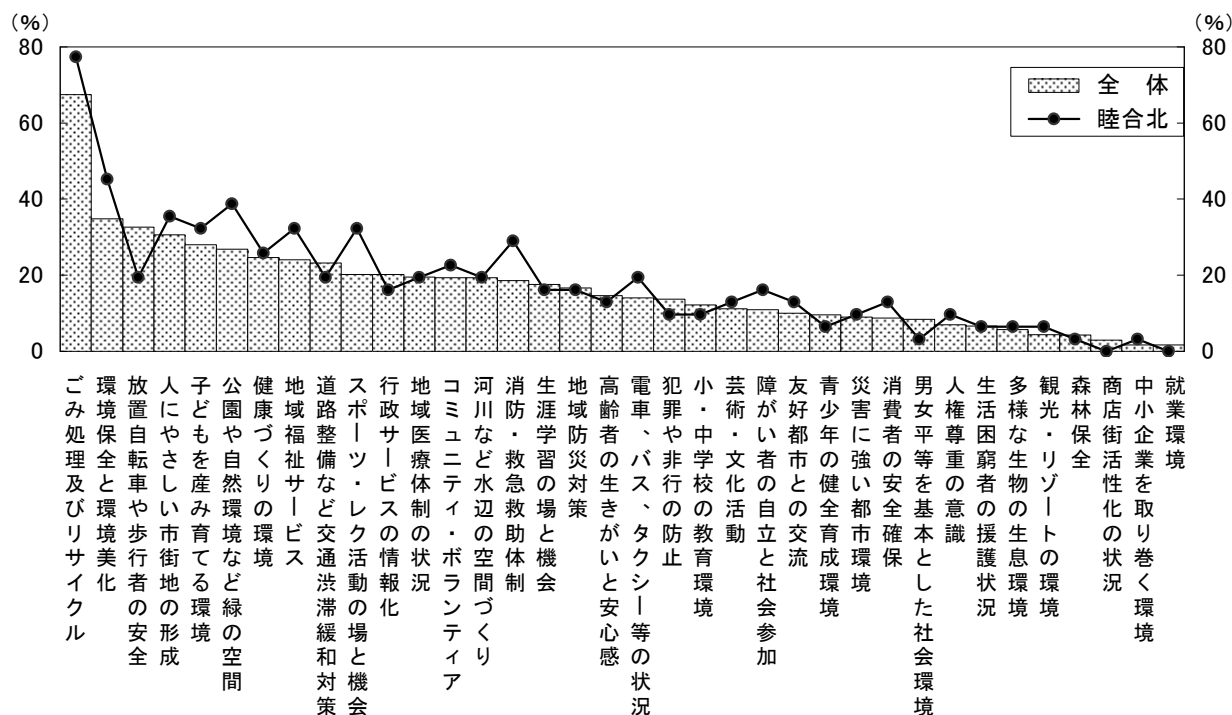
図 14-2-9 まちづくり全般の変化－依知南地区（悪くなったもの）



〔睦合北地区〕

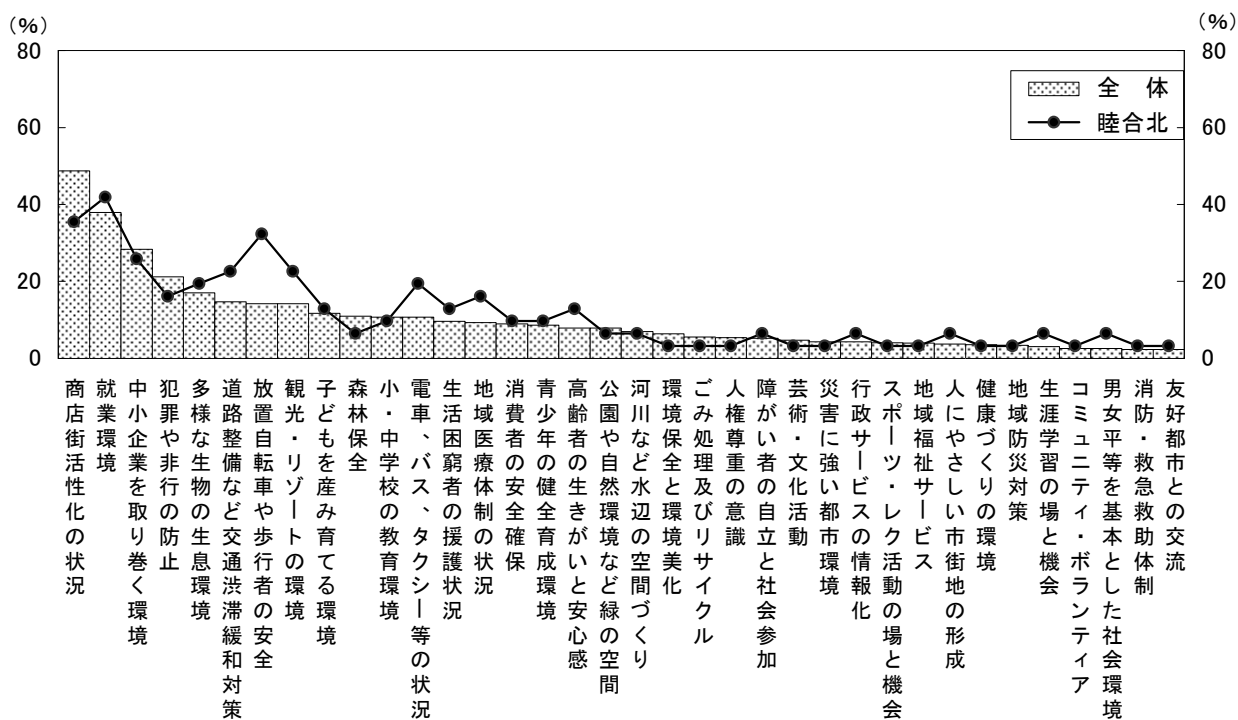
良くなったものでは、全体と比べて『環境保全と環境美化』、『公園や自然環境など緑の空間』、『スポーツ・レクリエーション活動の場と機会』、『消防・救急救助体制』が特に高くなっている。一方、『放置自転車や歩行者の安全』が特に低くなっている。

図 14-2-10 まちづくり全般の変化―睦合北地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『放置自転車や歩行者の安全』が特に高くなっている。一方、『商店街活性化の状況』が特に低くなっている。

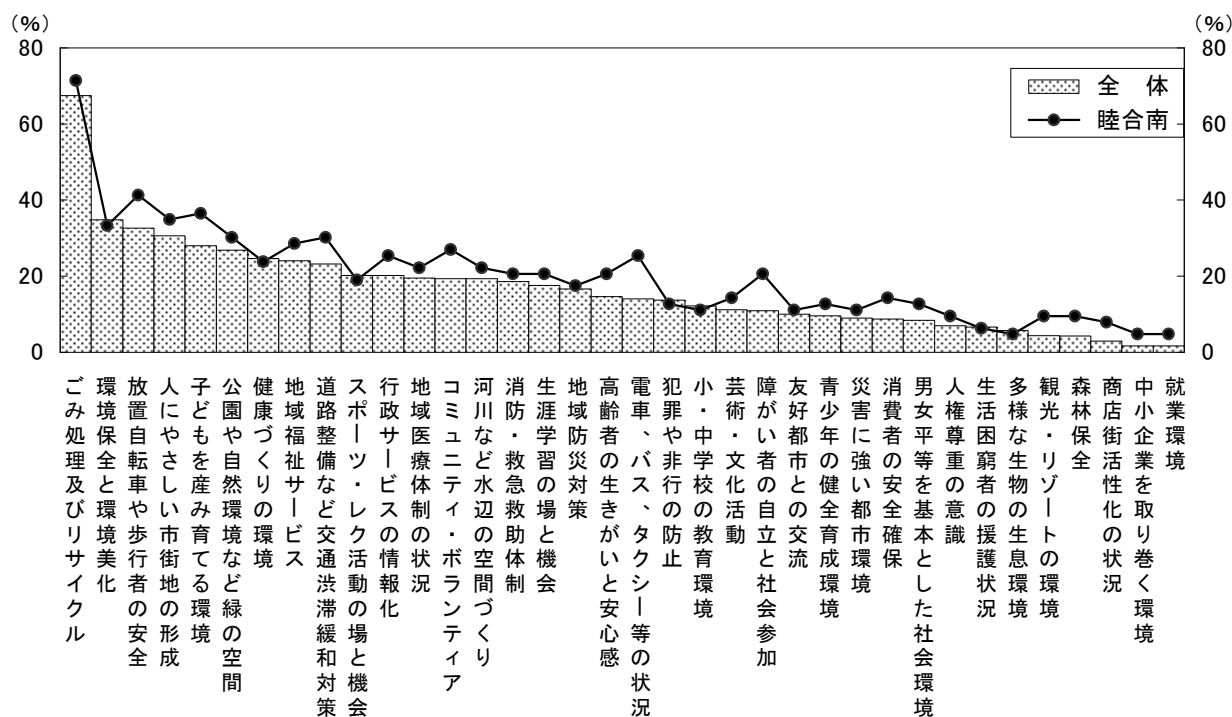
図 14-2-11 まちづくり全般の変化―睦合北地区（悪くなったもの）



〔睦合南地区〕

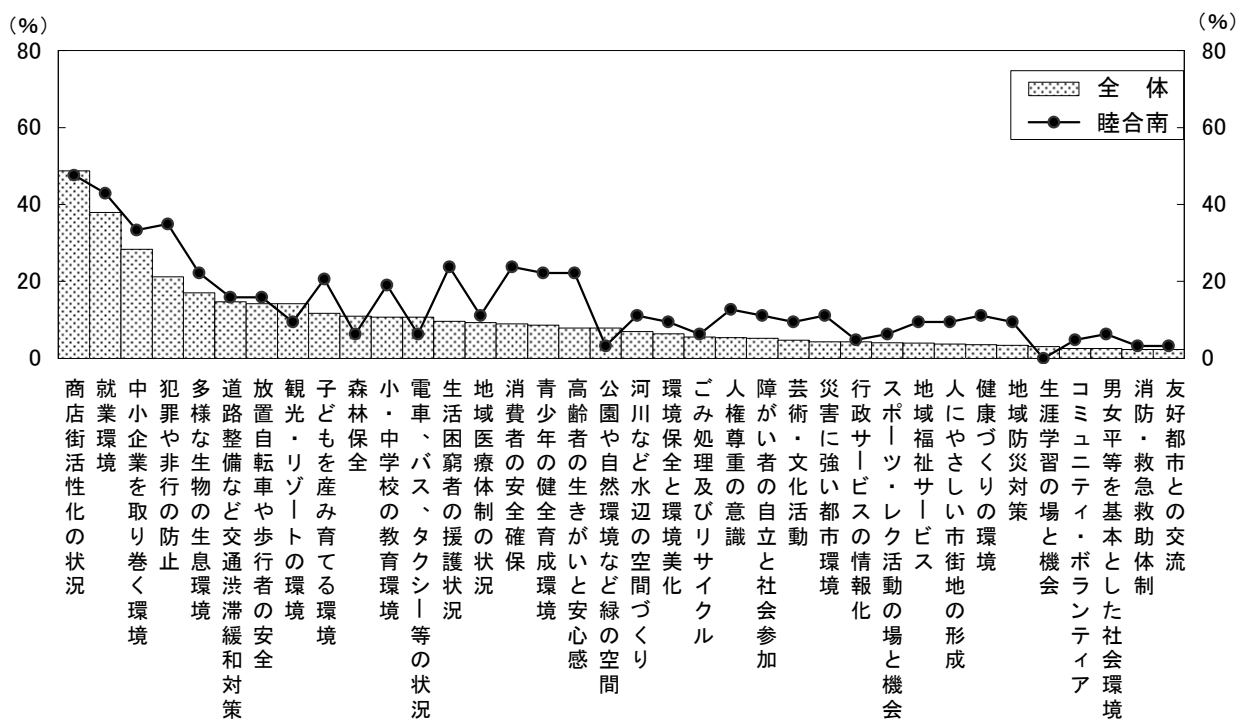
良くなったものでは、全体と比べて『放置自転車や歩行者の安全』、『電車、バス、タクシー等の状況』、『障がい者の自立と社会参加』が特に高くなっている。

図 14-2-12 まちづくり全般の変化―睦合南地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『犯罪や非行の防止』、『生活困窮者の援護状況』、『消費者の安全確保』、『青少年の健全育成環境』、『高齢者の生きがいと安心感』が特に高くなっている。

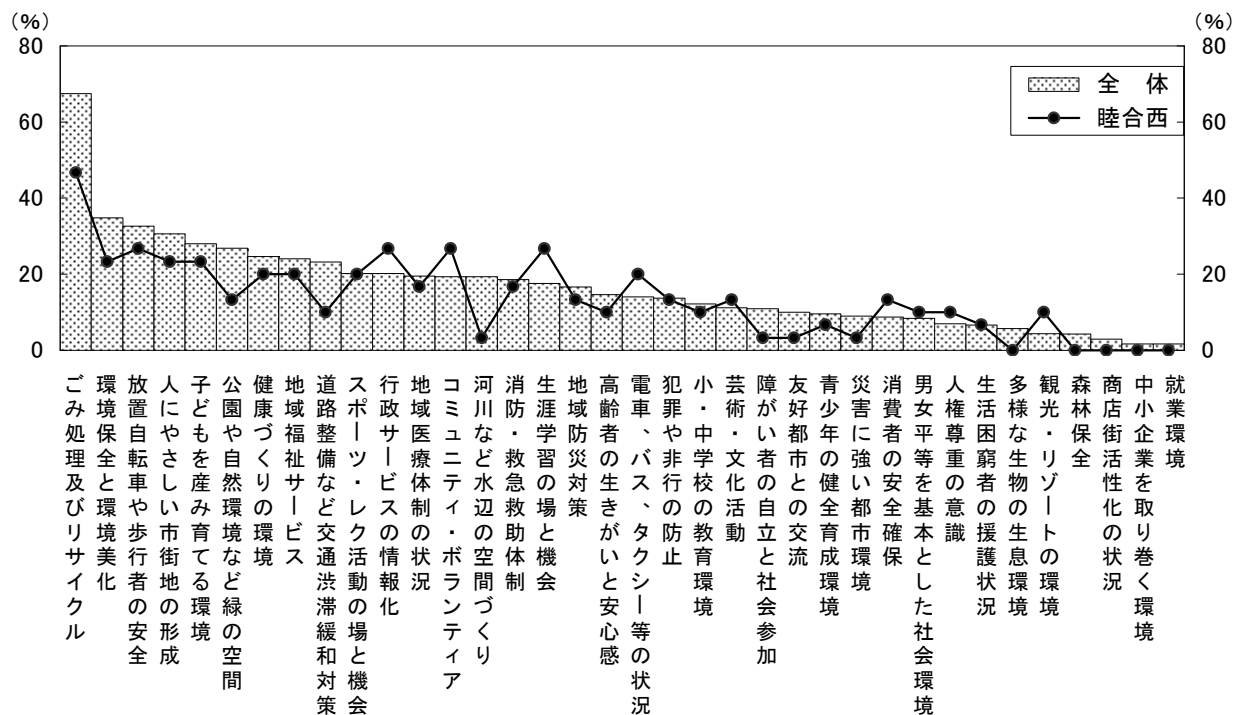
図 14-2-13 まちづくり全般の変化―睦合南地区（悪くなったもの）



〔睦合西地区〕

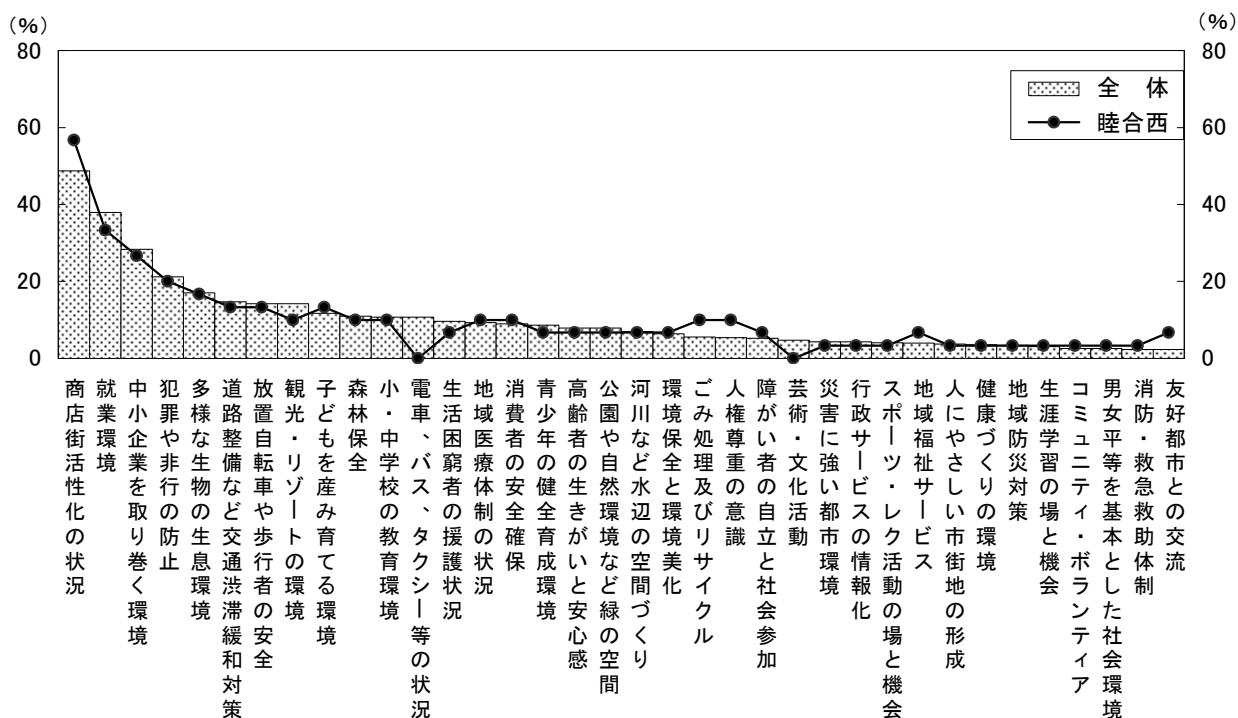
良くなったものでは、全体と比べて『行政サービスの情報化』、『コミュニティ活動・ボランティア活動』、『生涯学習の場と機会』、『電車、バス、タクシー等の状況』が高くなっている。一方、『ごみ処理及びリサイクル』、『環境保全と環境美化』、『公園や自然環境など緑の空間』、『道路整備など交通渋滞緩和対策』、『河川など水辺の空間づくり』が特に低くなっている。

図 14-2-14 まちづくり全般の変化－睦合西地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『商店街活性化の状況』が高くなっている。一方、『電車、バス、タクシー等の状況』が特に低くなっている。

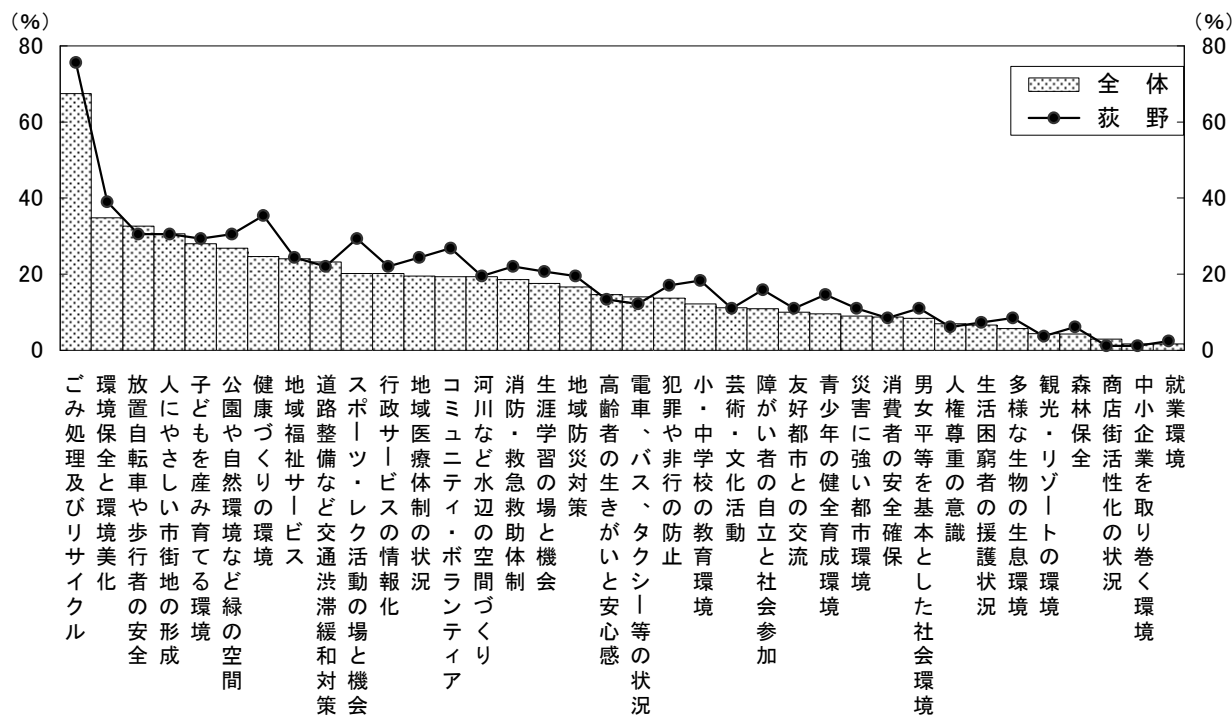
図 14-2-15 まちづくり全般の変化－睦合西地区（悪くなったもの）



〔荻野地区〕

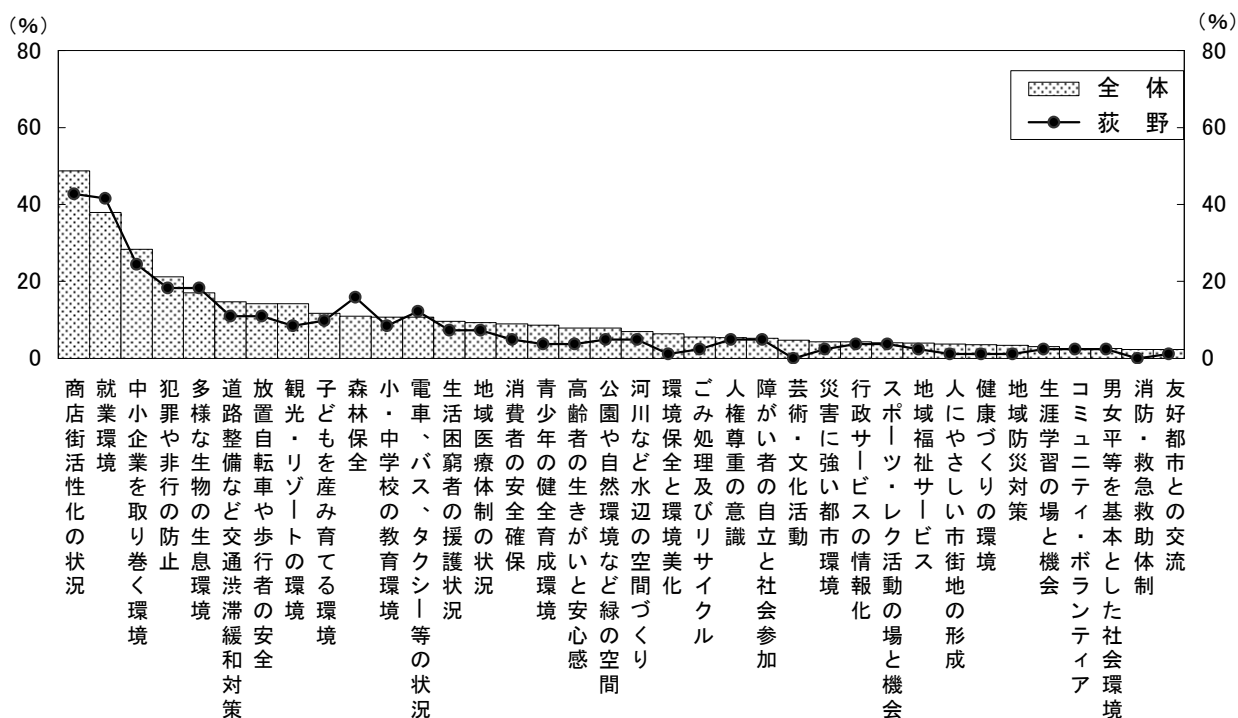
良くなったものでは、全体と比べて『ごみ処理及びリサイクル』、『健康づくりの環境』、『スポーツ・レク活動の場と機会』が特に高くなっている。

図 14-2-16 まちづくり全般の変化－荻野地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『商店街活性化の状況』、『観光・リゾートの環境』、『環境保全と環境美化』が低くなっている。

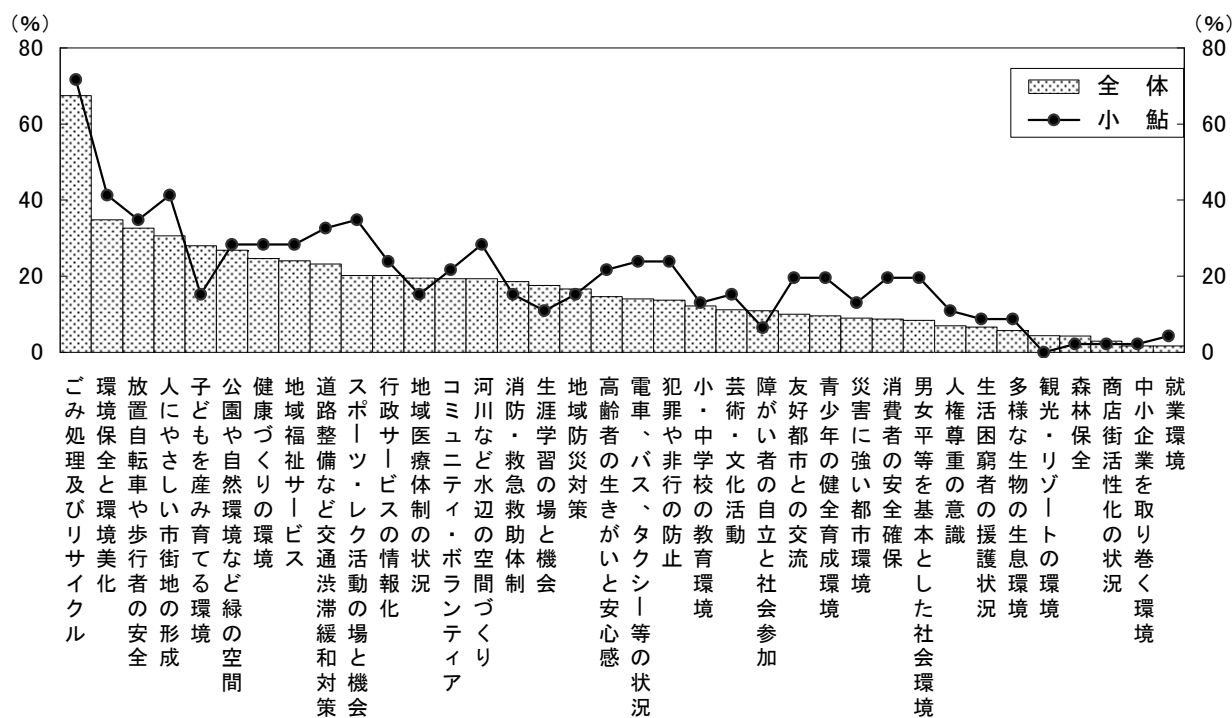
図 14-2-17 まちづくり全般の変化－荻野地区（悪くなったもの）



〔小鮎地区〕

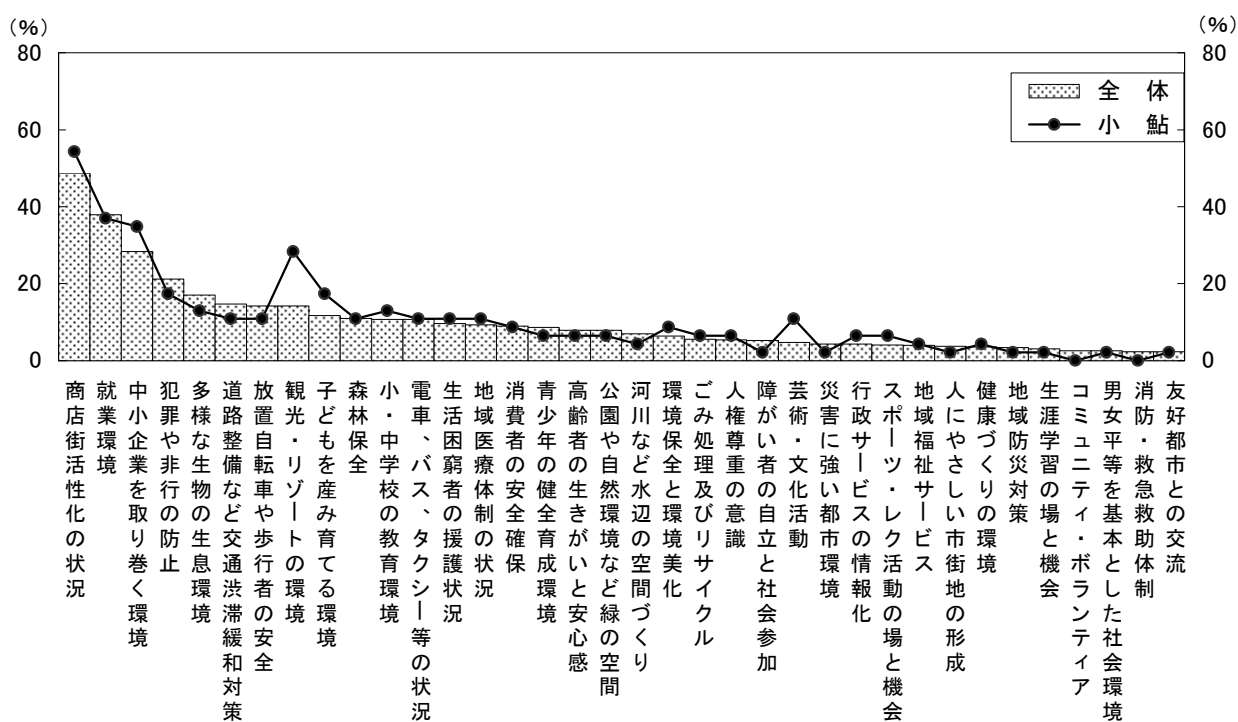
良くなったものでは、全体と比べて『人にやさしい市街地の形成』、『スポーツ・レクリエーション活動の場と機会』、『犯罪や非行の防止』、『青少年の健全育成環境』、『消費者の安全確保』、『男女平等を基本とした社会環境』が特に高くなっている。一方、『子どもを産み育てる環境』が特に低くなっている。

図 14-2-18 まちづくり全般の変化—小鮎地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『観光・リゾートの環境』が特に高くなっている。

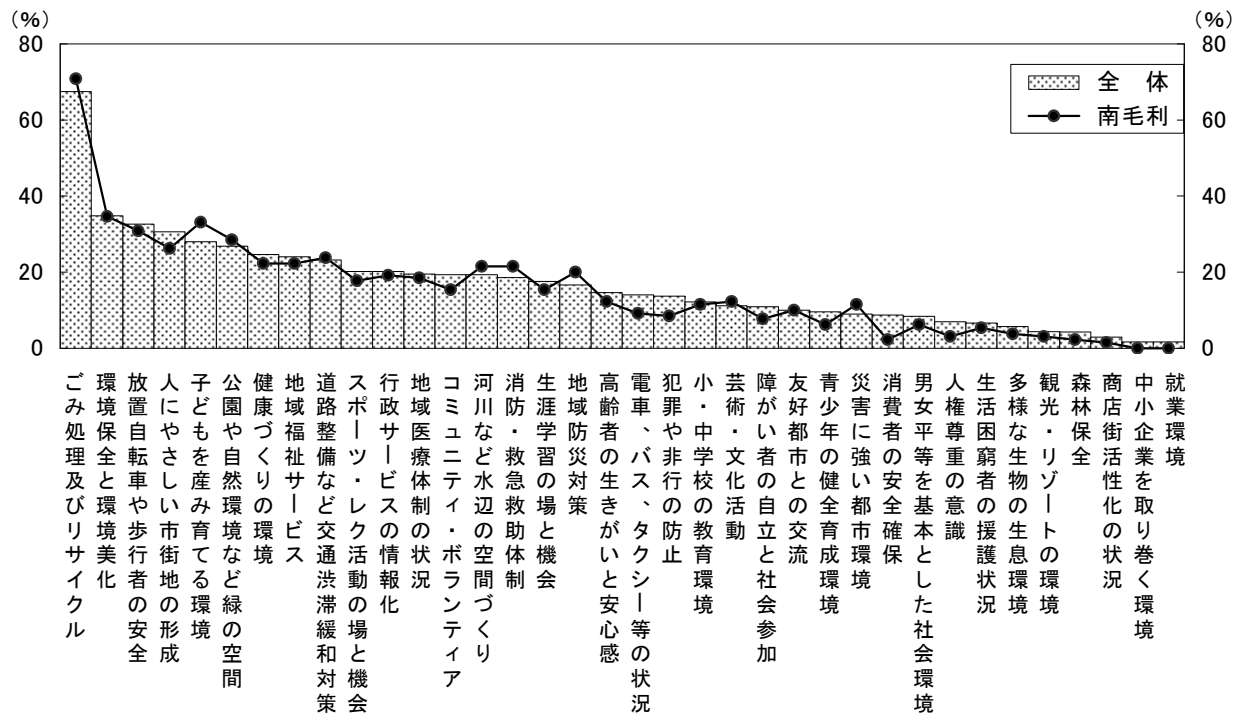
図 14-2-19 まちづくり全般の変化—小鮎地区（悪くなったもの）



〔南毛利地区〕

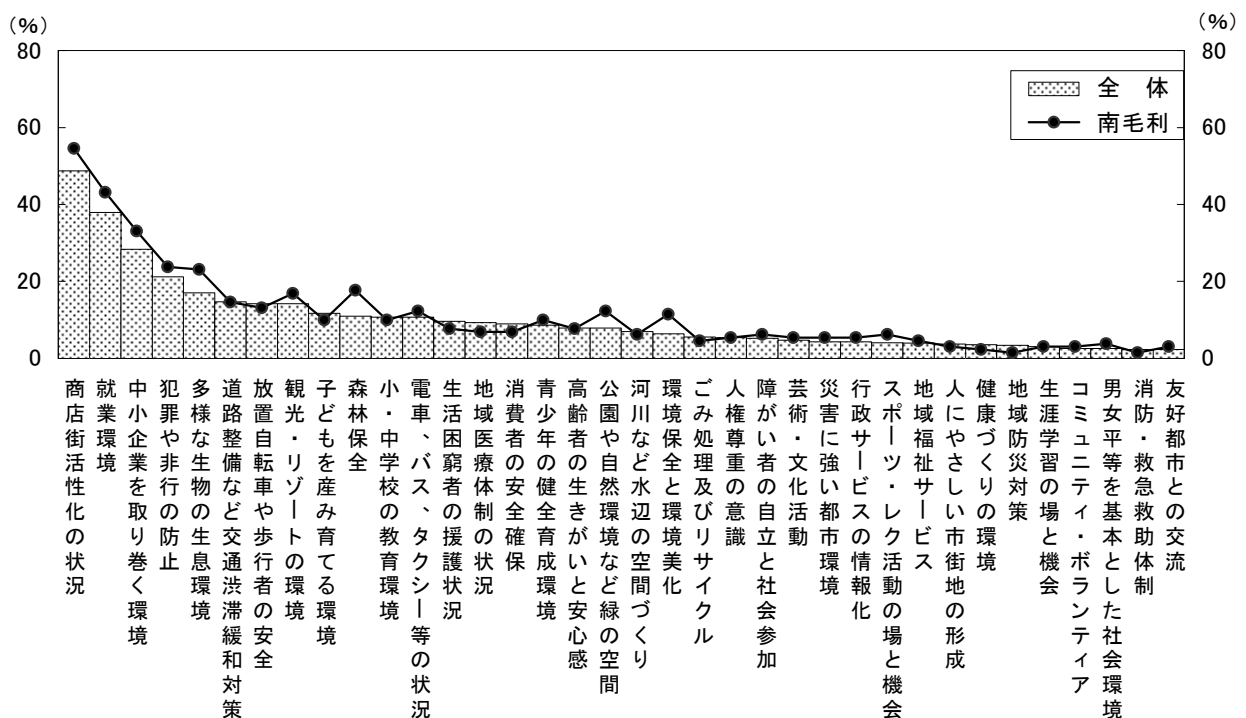
良くなったものでは、全体と比べて『子どもを産み育てる環境』が高くなっている。一方、『犯罪や非行の防止』、『消費者の安全確保』が低くなっている。

図 14-2-20 まちづくり全般の変化—南毛利地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『商店街活性化の状況』、『就業環境』、『多様な生物の生息環境』、『森林保全』、『環境保全と環境美化』が高くなっている。

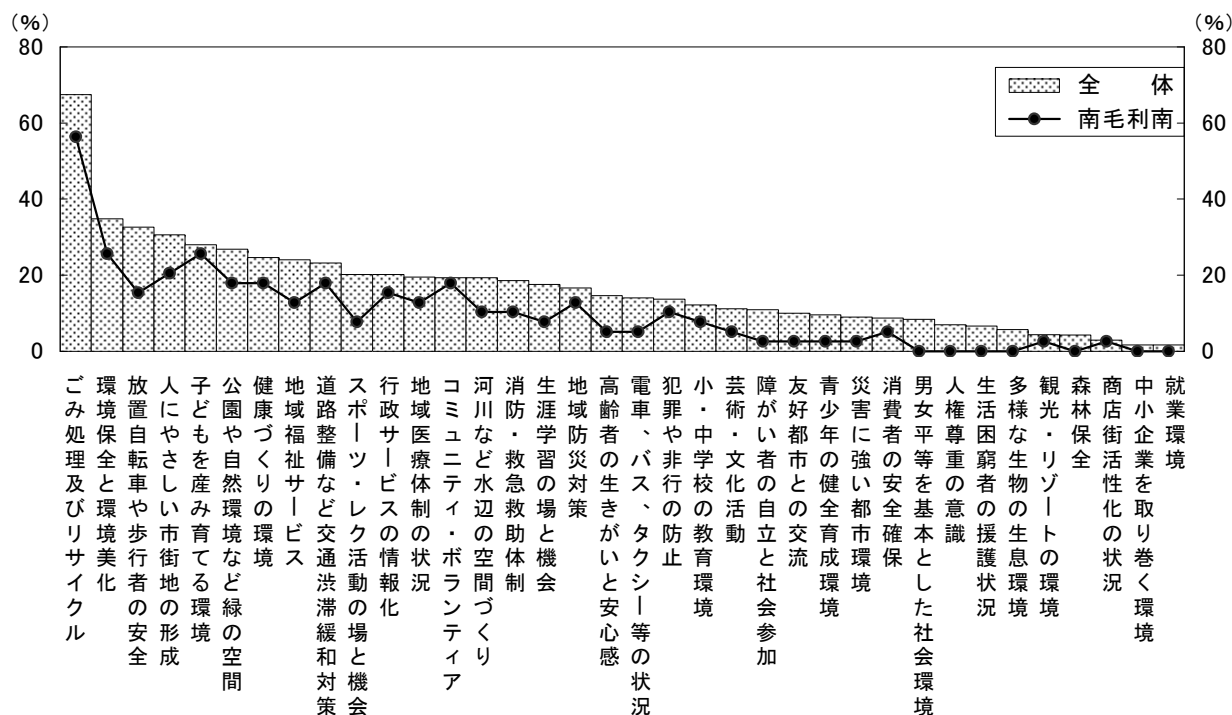
図 14-2-21 まちづくり全般の変化—南毛利地区（悪くなったもの）



〔南毛利南地区〕

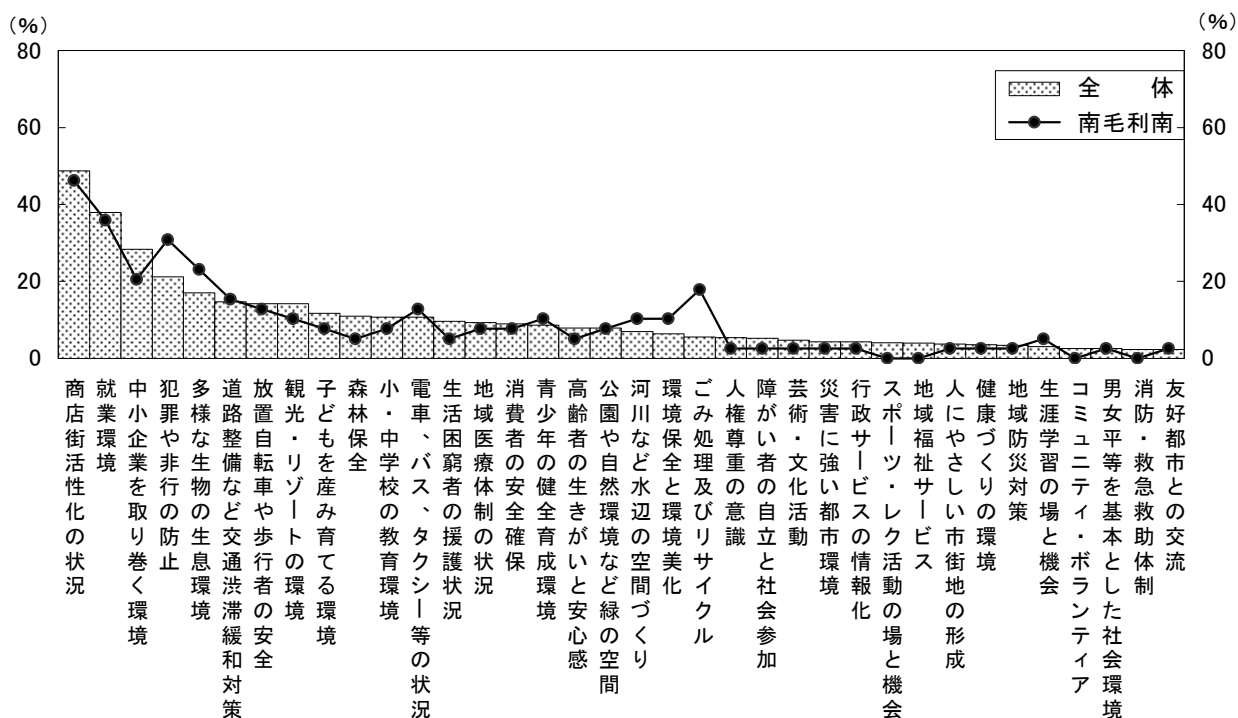
良くなったものでは、全体と比べて『ごみ処理及びリサイクル』、『放置自転車や歩行者の安全』、『人にやさしい市街地の形成』、『地域福祉サービス』、『スポーツ・レクリエーション活動の場と機会』が特に低くなっている。

図 14-2-22 まちづくり全般の変化—南毛利南地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『ごみ処理及びリサイクル』が高くなっている。一方、『中小企業を取り巻く環境』、『森林保全』が低くなっている。

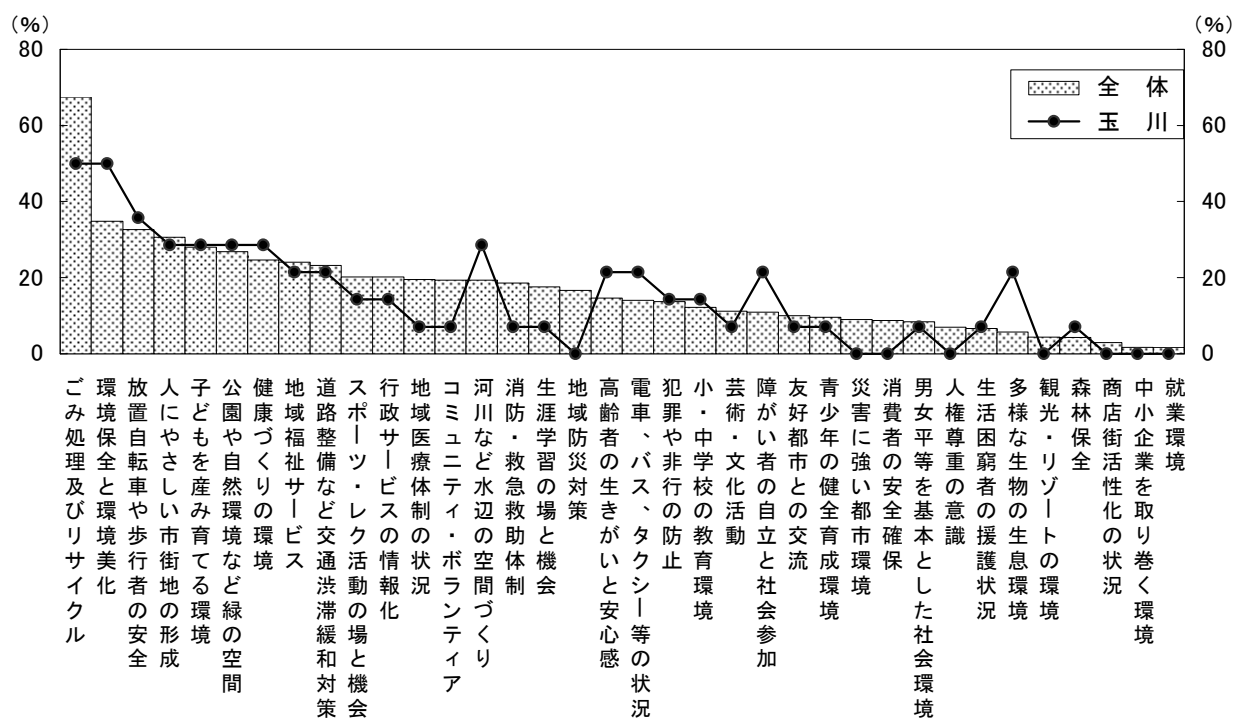
図 14-2-23 まちづくり全般の変化—南毛利南地区（悪くなったもの）



〔玉川地区〕

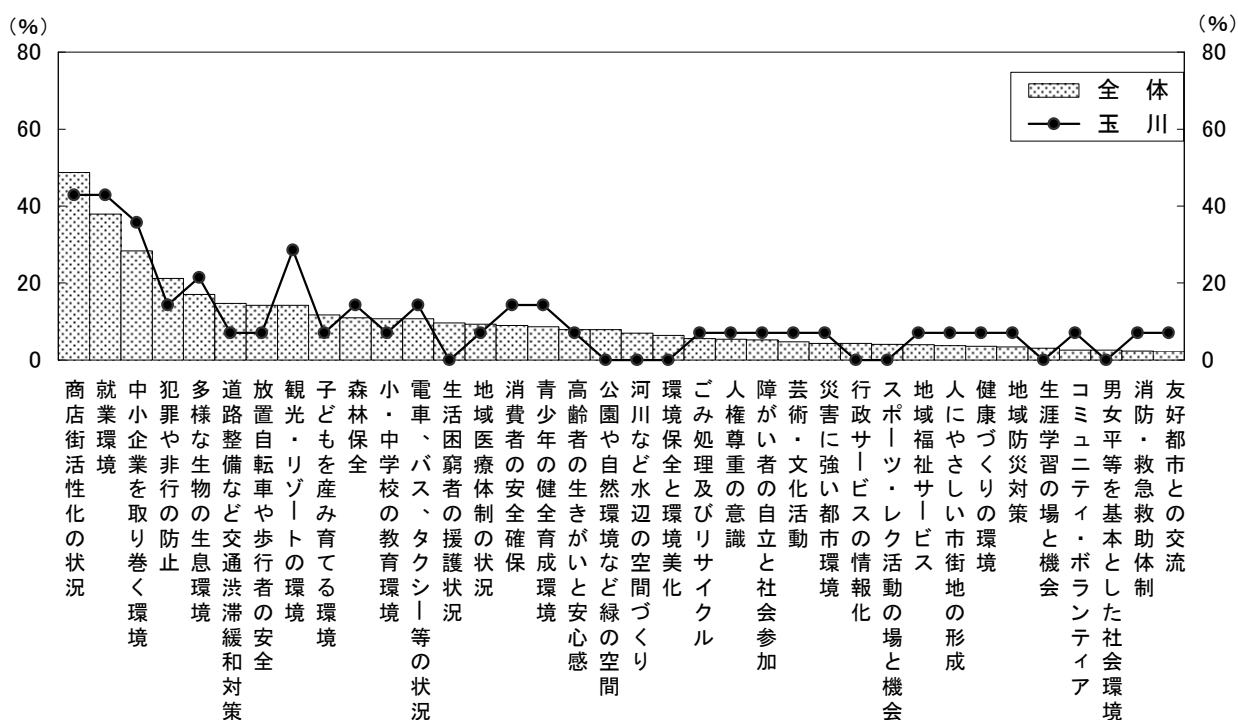
良くなったものでは、全体と比べて『環境保全と環境美化』、『障がい者の自立と社会参加』、『多様な生物の生息環境』が特に高くなっている。一方、『ごみ処理及びリサイクル』、『地域医療体制の状況』、『コミュニティ・ボランティア』、『消防・救急救助体制』、『生涯学習の場と機会』、『地域防災対策』が特に低くなっている。

図 14-2-24 まちづくり全般の変化―玉川地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『観光・リゾートの環境』が特に高くなっている。一方、『道路整備など交通渋滞緩和対策』、『放置自転車や歩行者の安全』、『生活困窮者の援護状況』が低くなっている。

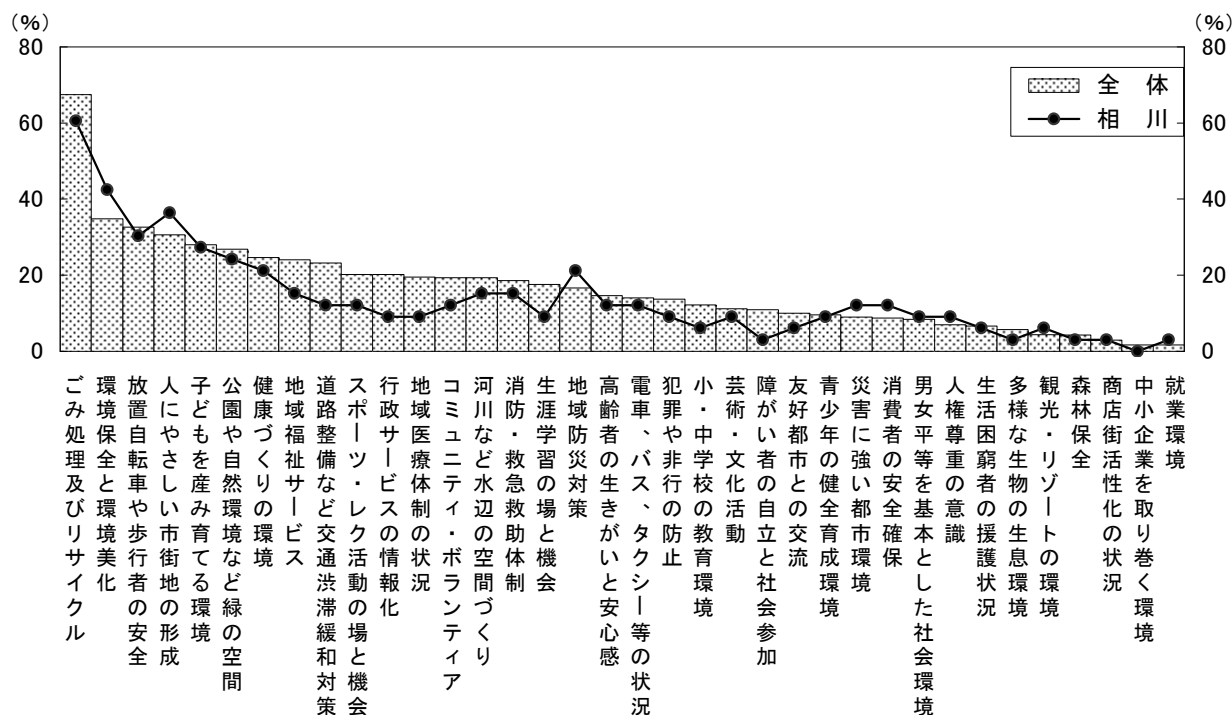
図 14-2-25 まちづくり全般の変化―玉川地区（悪くなったもの）



〔相川地区〕

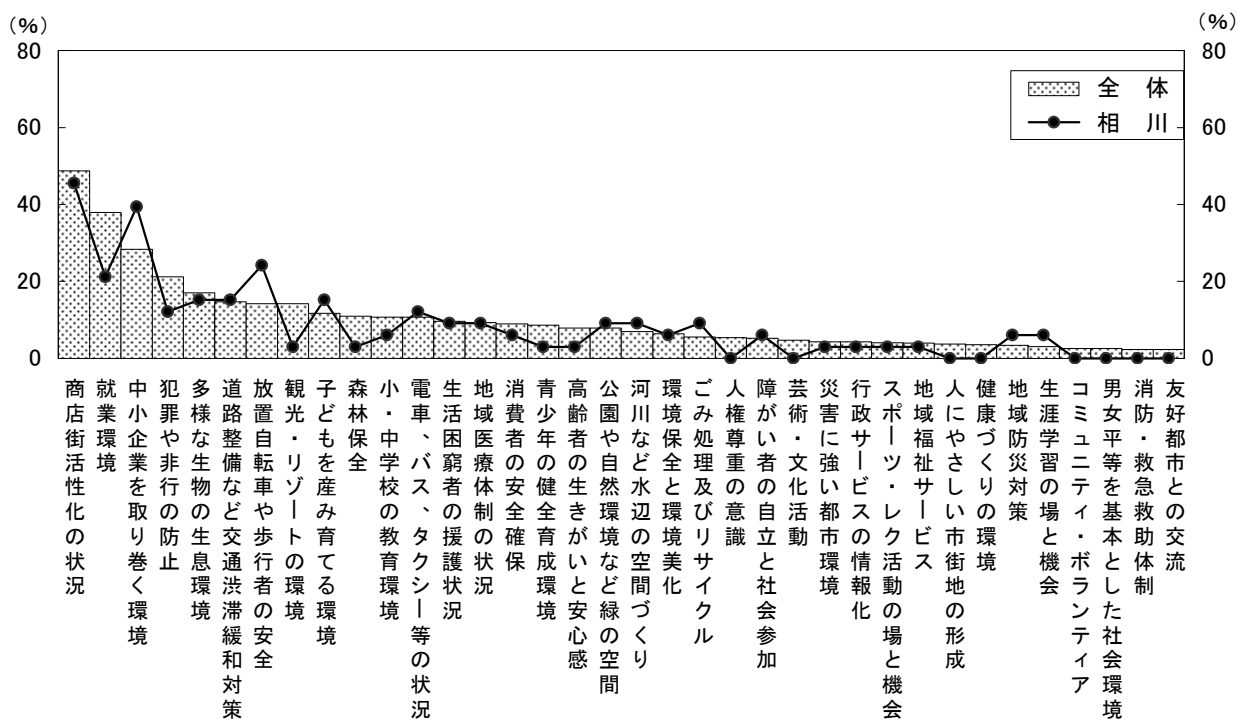
良くなったものでは、全体と比べて『環境保全と環境美化』、『人にやさしい市街地の形成』が高くなっている。一方、『道路整備など交通渋滞緩和対策』、『行政サービスの情報化』、『地域医療体制の状況』が特に低くなっている。

図 14-2-26 まちづくり全般の変化－相川地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『中小企業を取り巻く環境』、『放置自転車や歩行者の安全』が高くなっている。一方、『就業環境』、『観光・リゾートの環境』が特に低くなっている。

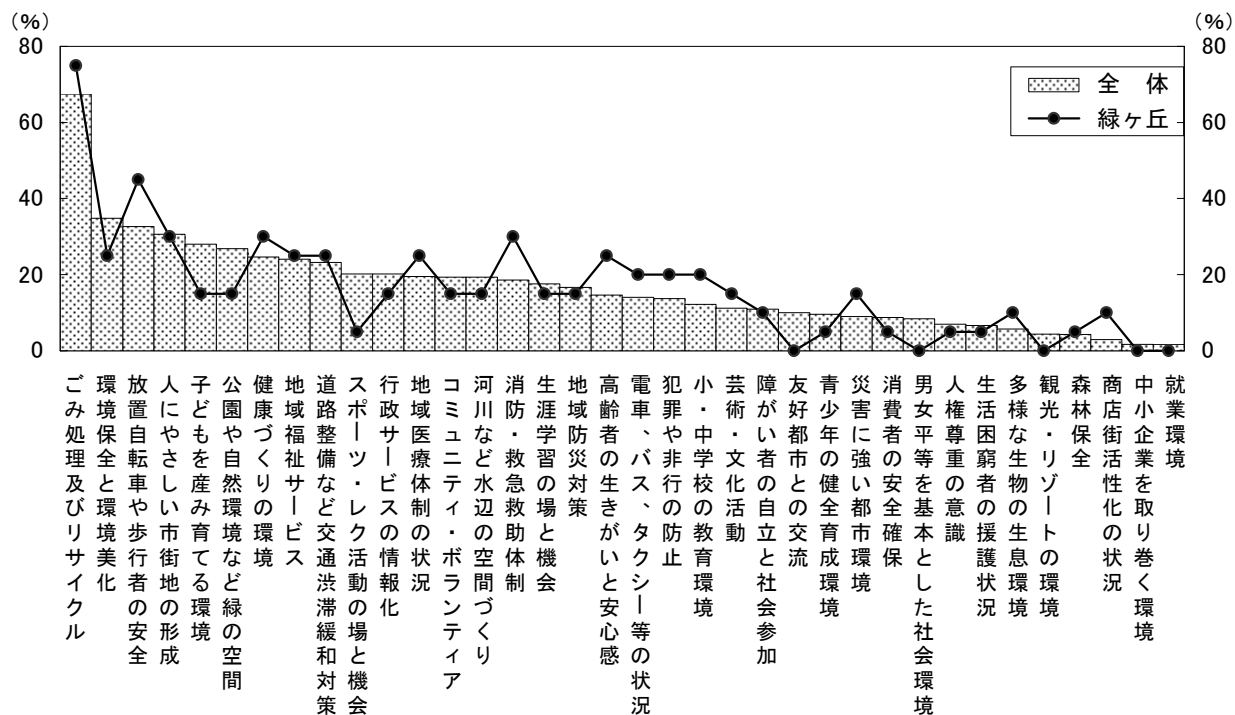
図 14-2-27 まちづくり全般の変化－相川地区（悪くなったもの）



〔緑ヶ丘地区〕

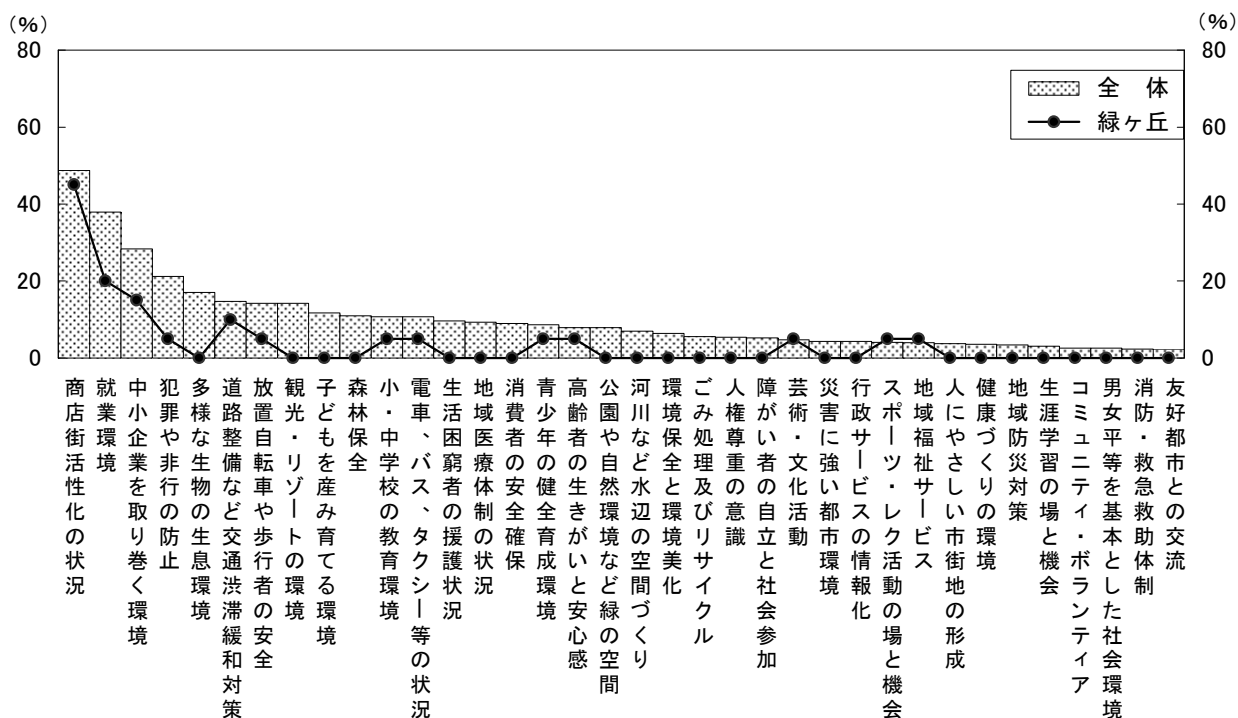
良くなったものでは、全体と比べて『放置自転車や歩行者の安全』、『消防・救急救助体制』、『高齢者の生きがいと安心感』が特に高くなっている。一方、『子どもを産み育てる環境』、『公園や自然環境など緑の空間』、『スポーツ・レクリエーション活動の場と機会』、『友好都市との交流』が特に低くなっている。

図 14-2-28 まちづくり全般の変化－緑ヶ丘地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『就業環境』、『中小企業を取り巻く環境』、『犯罪や非行の防止』、『多様な生物の生息環境』、『観光・リゾートの環境』、『子どもを産み育てる環境』、『森林保全』が特に低くなっている。

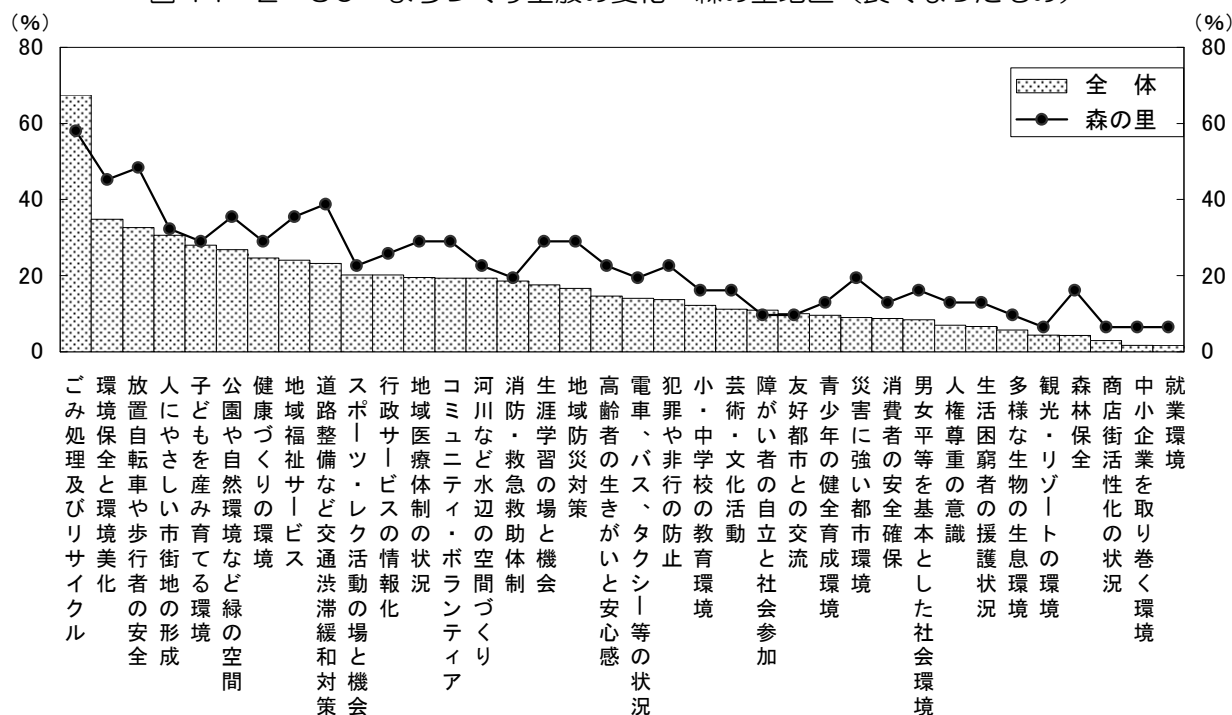
図 14-2-29 まちづくり全般の変化－緑ヶ丘地区（悪くなったもの）



〔森の里地区〕

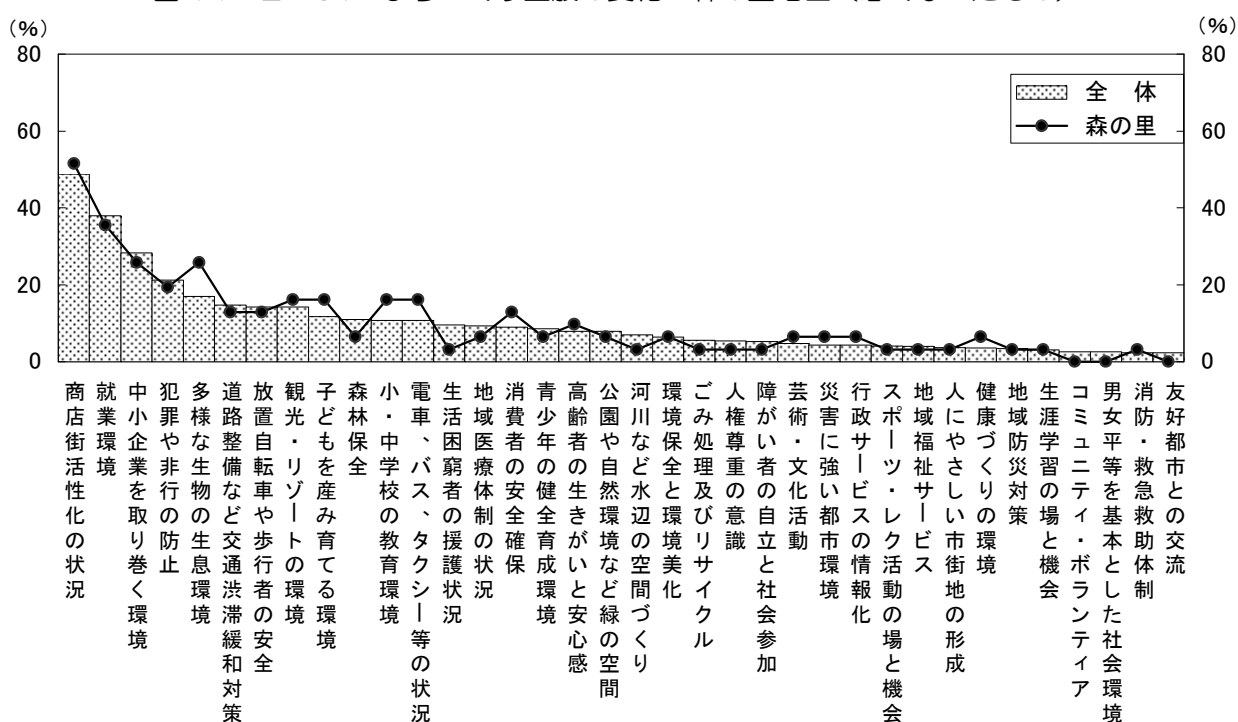
良くなったものでは、全体と比べて『環境保全と環境美化』、『放置自転車や歩行者の安全』、『地域福祉サービス』、『道路整備など交通渋滞緩和対策』、『生涯学習の場と機会』、『地域防災対策』、『災害に強い都市環境』が特に高くなっている。一方、『ごみ処理及びリサイクル』が低くなっている。

図 14-2-30 まちづくり全般の変化－森の里地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『多様な生物の生息環境』、『小・中学校の教育環境』、『電車、バス、タクシー等の状況』が高くなっている。一方、『生活困窮者の援護状況』が低くなっている。

図 14-2-31 まちづくり全般の変化－森の里地区（悪くなったもの）

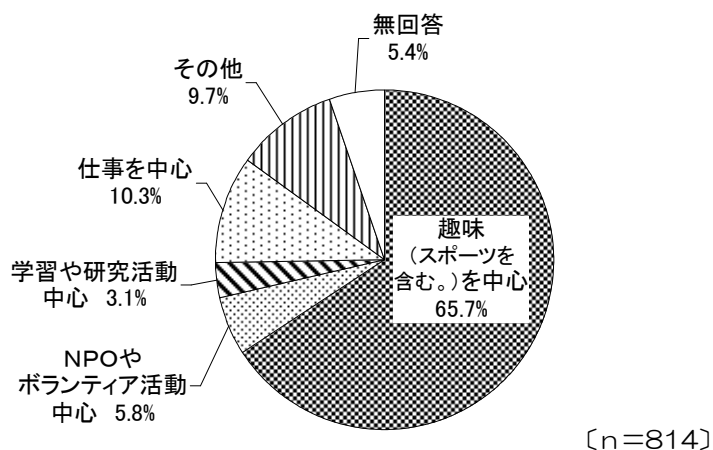


(3) 60 歳以降の生活様式の希望 (B：問 21)

問. 将来 (60 歳以降) どのような生活を送りたいですか。

(現在 60 歳以上の方は、どのような生活を望んでいますか。)(1 つだけ)

図 14-3-1 60 歳以降の生活様式の希望



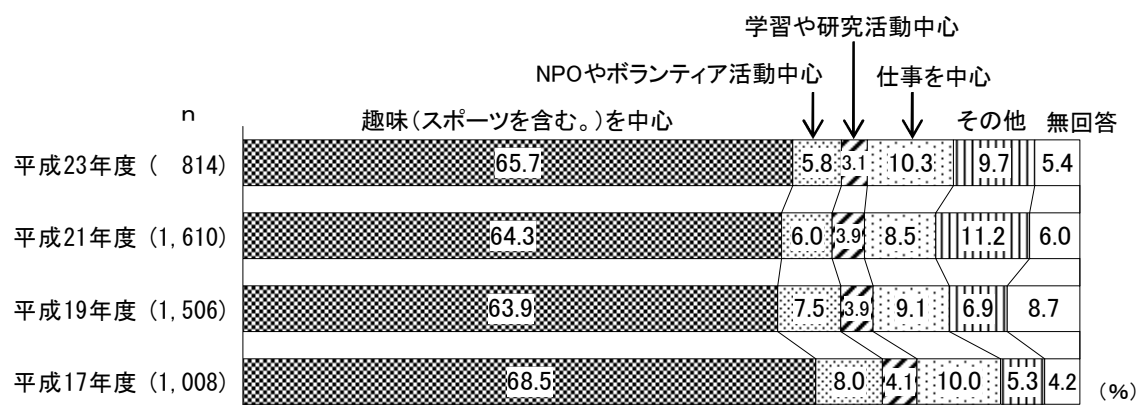
【全体】

60 歳を過ぎてからどのような生活を送りたいか聞いたところ、「趣味(スポーツを含む。)を中心」(65.7%)が6割半ばで特に高くなっている。その他、「仕事を中心」(10.3%)が1割、「NPOやボランティア活動中心」(5.8%)、「学習や研究活動中心」(3.1%)が1割未満となっている。

【経年変化】

経年による大きな差異はみられない。

図 14-3-2 60 歳以降の生活様式の希望—経年変化

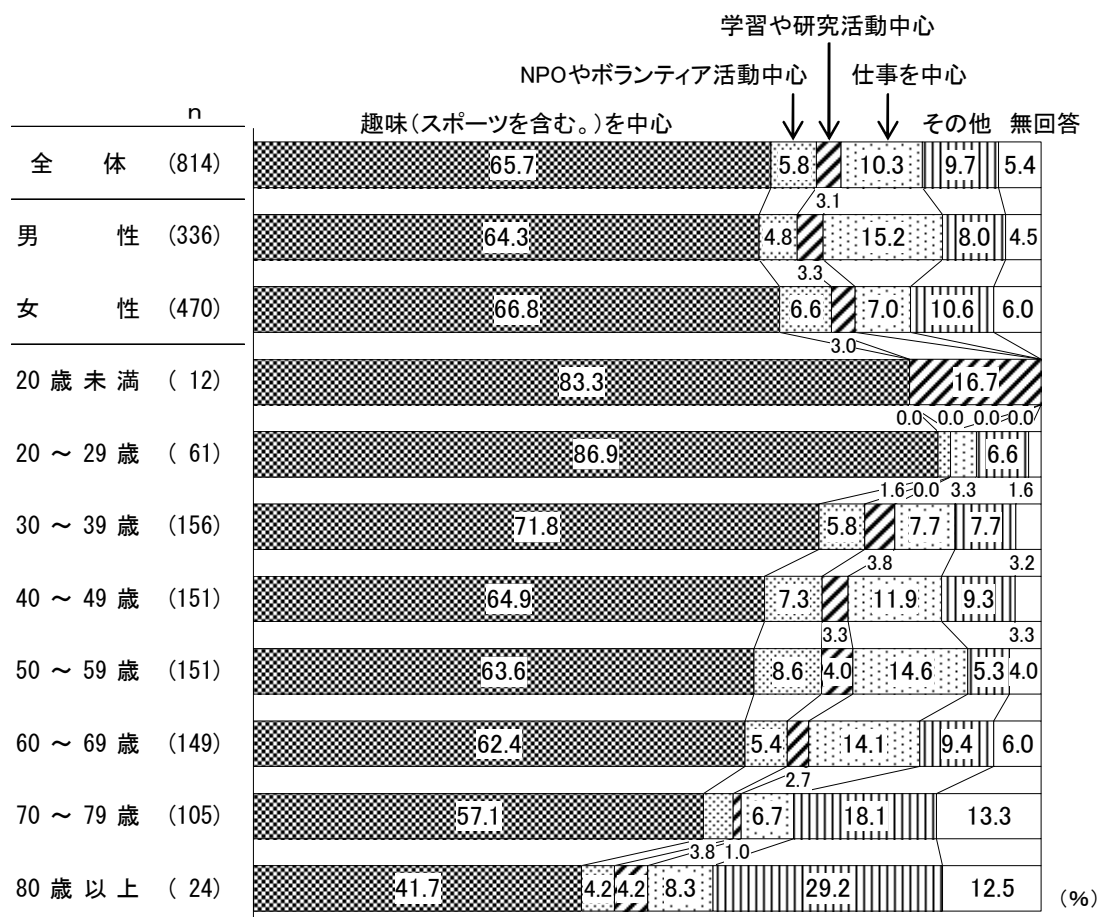


【属性別】

性別にみると、男性で「仕事を中心」（15.2％）が女性より 8.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、どの年代も「趣味（スポーツを含む。）を中心」が最も高くなっており、年代が低くなるにつれて占める割合が高くなる傾向にある。

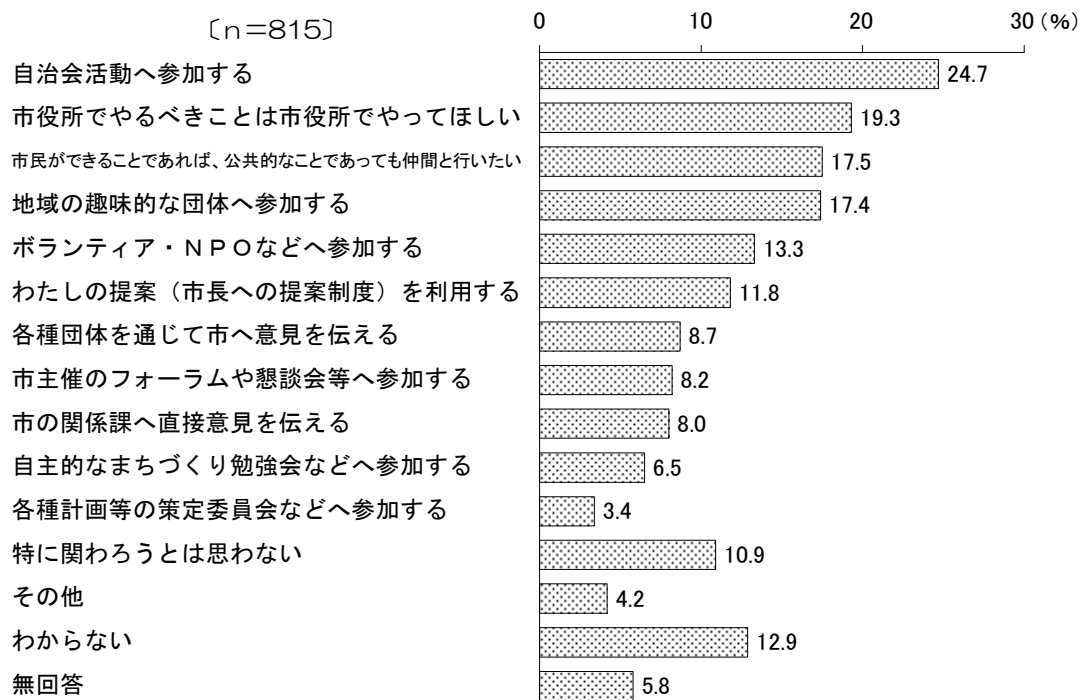
図 14-3-3 60 歳以降の生活様式の希望—性別、年齢別



(4) まちづくりへの参加（A：問 30）

問. あなたは、どのようにまちづくりに関わっていきたいと思いますか。（いくつでも）

図 14-4-1 まちづくりへの参加



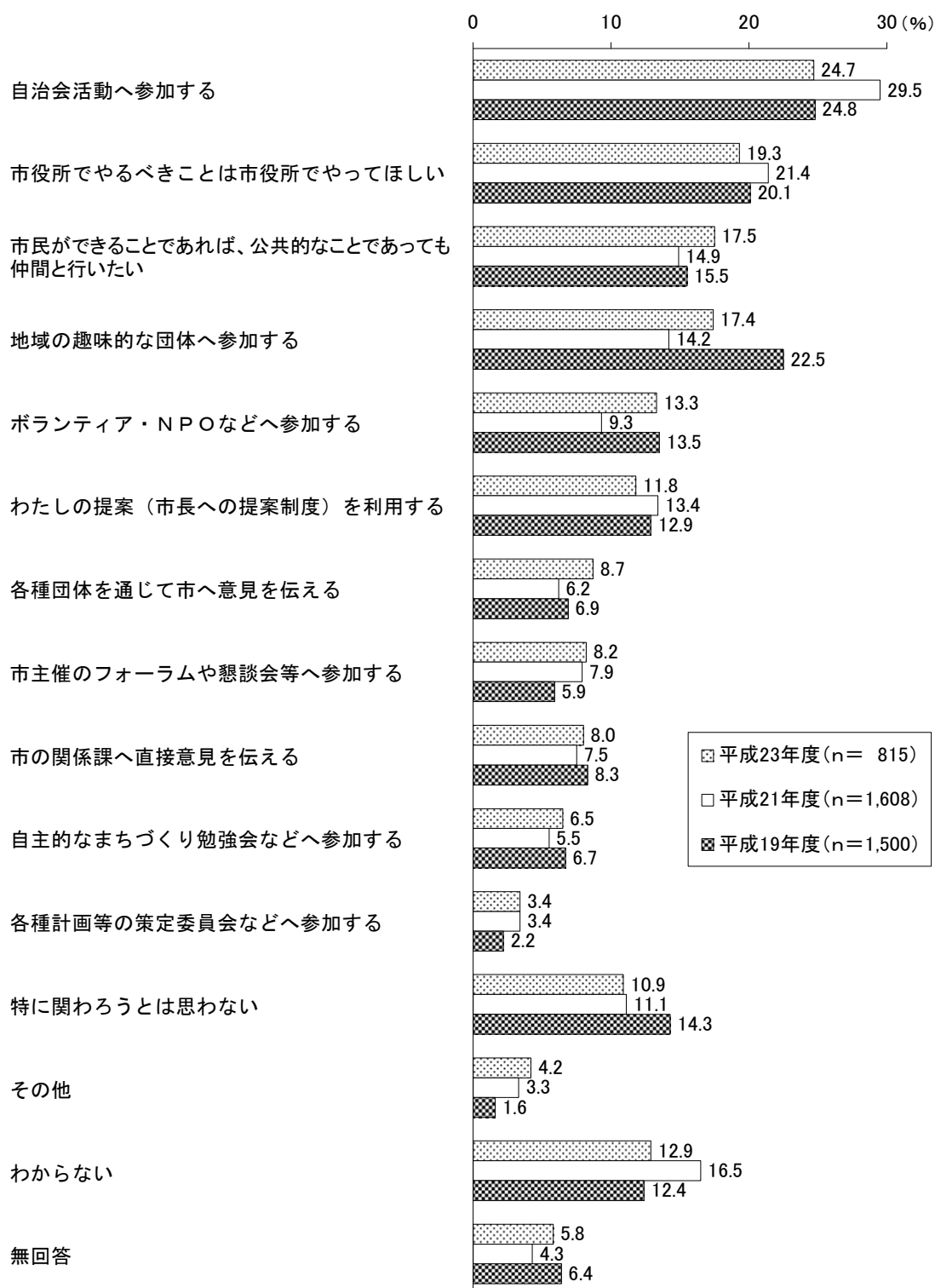
【全体】

どのようにしてまちづくりに関わっていきたいと思うか聞いたところ、「自治会活動へ参加する」（24.7%）が2割半ばで最も高くなっている。次いで、「市役所でやるべきことは市役所でやってほしい」（19.3%）、「市民ができることであれば、公共的なことであっても仲間で行いたい」（17.5%）、「地域の趣味的な団体へ参加する」（17.4%）、「ボランティア・NPOなどへ参加する」（13.3%）となっている。一方、「特に関わろうとは思わない」（10.9%）はほぼ1割となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、「自治会活動へ参加する」が前回調査より 4.8 ポイント低くなっている。

図 14-4-2 まちづくりへの参加—経年変化（複数回答）



【属性別】

性別にみると、男性で「市主催のフォーラムや懇談会等へ参加する」（12.3%）が女性より 7.4 ポイント高く、「わたしの提案（市長への提案制度）を利用する」（14.8%）が女性より 5.4 ポイント高く、「各種団体を通じて市へ意見を伝える」（11.5%）が女性より 5.2 ポイント高く、「自治会活動へ参加する」（27.1%）が女性より 4.5 ポイント高くなっている。一方、女性で「市役所でやるべきことは市役所でやってほしい」（21.0%）が男性より 4.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、70 歳代で「自治会活動へ参加する」（36.7%）が 4 割近く、60 歳代・70 歳代で「地域の趣味的な団体へ参加する」（27.3%・26.6%）が 2 割台で他の年代より高くなっている。また、80 歳以上で「市の関係課へ直接意見を伝える」と「自主的なまちづくり勉強会などへ参加する」（それぞれ 18.2%）が 2 割近くで他の年代より高くなっている。

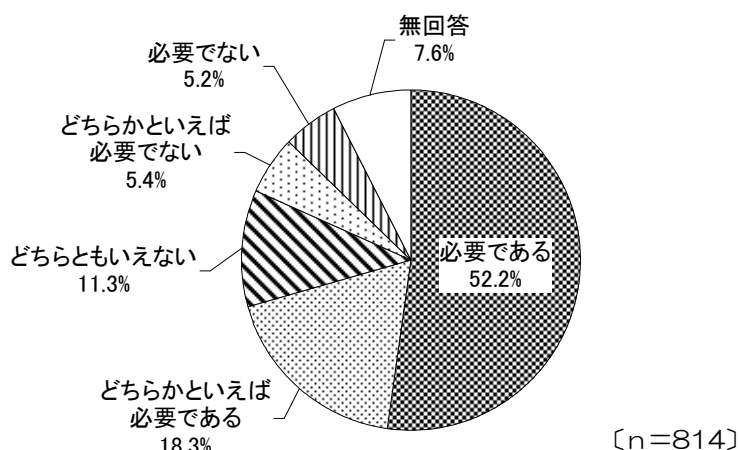
表 14-4-1 まちづくりへの参加一性別、年齢別（複数回答）

(%)																		
			n	自治会活動へ参加する	市役所でやるべきことは市役所でやってほしい	市民ができることも仲間と行いたい	地域の趣味的な団体へ参加する	ボランティア・NPOなどへ参加する	わたしの提案（市長への提案制度）を利用する	各種団体を通じて市へ意見を伝える	市主催のフォーラムや懇談会等へ参加する	市の関係課へ直接意見を伝える	自主的なまちづくり勉強会などへ参加する	各種計画等の策定委員会などへ参加する	特に関わろうとは思わない	その他	わからない	無回答
全 体		815	24.7	19.3	17.5	17.4	13.3	11.8	8.7	8.2	8.0	6.5	3.4	10.9	4.2	12.9	5.8	
性別	男 性	358	27.1	16.8	15.1	15.6	13.4	14.8	11.5	12.3	7.0	7.8	5.3	10.1	5.6	11.2	5.3	
	女 性	447	22.6	21.0	19.2	18.8	13.0	9.4	6.3	4.9	8.7	5.1	1.8	11.9	2.9	14.3	6.3	
年 齢 別	20 歳 未 満	12	-	-	8.3	8.3	25.0	-	16.7	-	8.3	-	-	33.3	-	16.7	-	
	20 ～ 29 歳	72	9.7	18.1	13.9	12.5	18.1	9.7	6.9	4.2	2.8	4.2	4.2	20.8	5.6	20.8	1.4	
	30 ～ 39 歳	149	20.8	19.5	15.4	14.1	12.1	10.1	6.0	6.0	4.0	4.7	1.3	10.1	2.7	18.8	4.7	
	40 ～ 49 歳	134	20.9	16.4	15.7	11.9	9.0	14.9	6.7	3.7	8.2	3.7	0.7	12.7	4.5	11.2	6.7	
	50 ～ 59 歳	156	26.3	17.3	17.9	13.5	19.2	13.5	8.3	9.6	9.6	6.4	5.8	7.1	8.3	9.6	3.8	
	60 ～ 69 歳	143	30.1	23.1	23.8	27.3	14.7	9.1	10.5	11.2	9.1	7.7	5.6	9.1	2.8	11.9	3.5	
	70 ～ 79 歳	109	36.7	20.2	18.3	26.6	6.4	11.9	12.8	13.8	9.2	9.2	2.8	7.3	1.8	8.3	12.8	
	80 歳 以 上	33	24.2	30.3	12.1	12.1	6.1	18.2	6.1	12.1	18.2	18.2	3.0	18.2	-	12.1	15.2	

(5) 本厚木駅周辺の活性化の必要性（B：問 27）

問. 本厚木駅周辺を活性化するために新たな商業施設の誘致や再開発事業を推進する必要があると思いますか。（1つだけ）

図 14-5-1 本厚木駅周辺の活性化の必要性



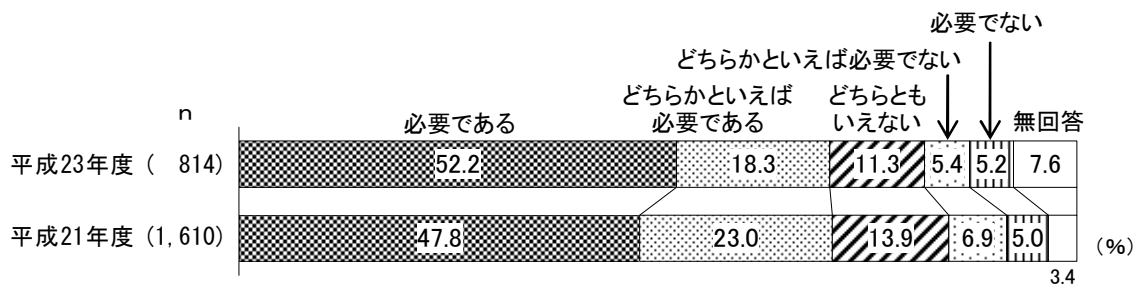
【全体】

本厚木駅周辺の活性化の必要性について聞いたところ、「必要である」（52.2%）、「どちらかといえば必要である」（18.3%）を合わせた『必要である』（70.5%）がほぼ7割となっている。一方、「必要でない」（5.2%）、「どちらかといえば必要でない」（5.4%）を合わせた『必要でない』（10.6%）はほぼ1割となっている。

【経年変化】

前回調査との比較をみると、「必要である」が4.4ポイント高くなっている。

図 14-5-2 本厚木駅周辺の活性化の必要性—経年変化

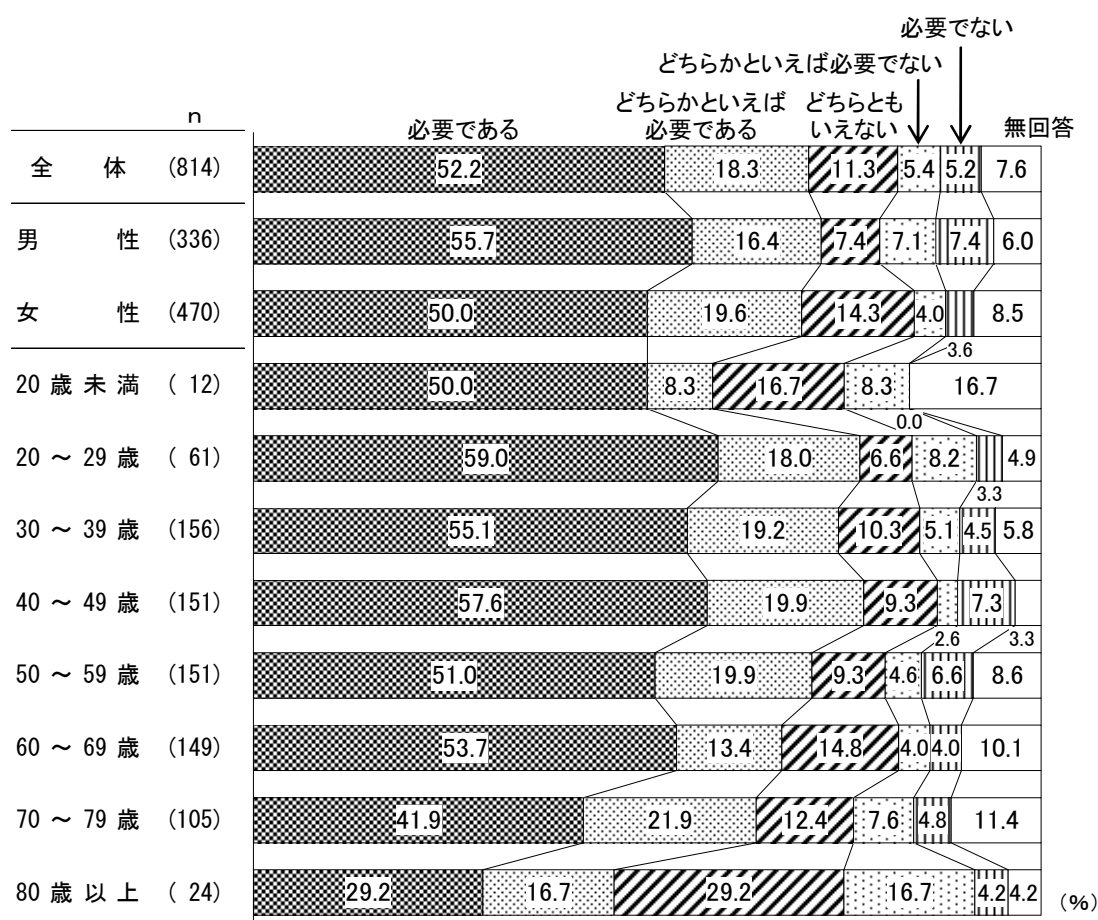


【属性別】

性別にみると、女性で「どちらともいえない」（14.3%）が男性より 6.9 ポイント高くなっている。一方、男性で『必要でない』（14.5%）が女性より 6.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、20 歳代・40 歳代で『必要である』（77.0%・77.5%）が8割近くで他の年代より高くなっている。また、80 歳以上で「どちらともいえない」（29.2%）がほぼ3割、『必要でない』（20.9%）が 2 割を超え他の年代より高くなっている。

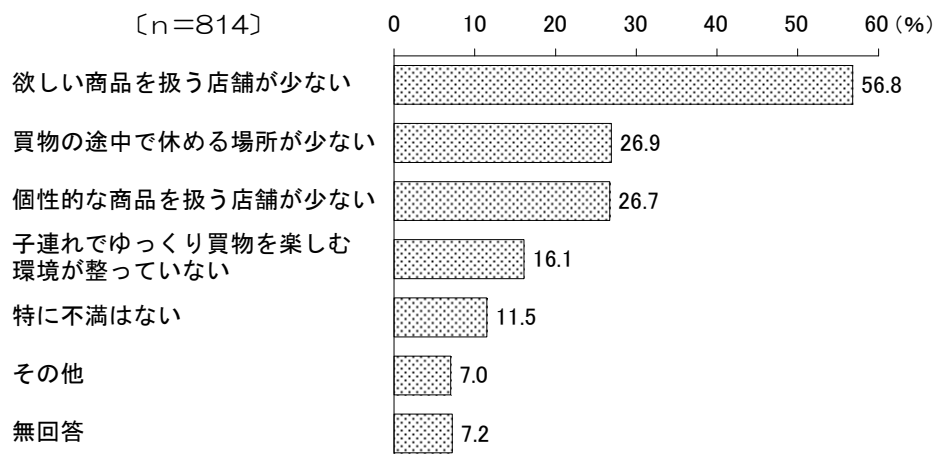
図 14-5-3 本厚木駅周辺の活性化の必要性—性別、年齢別



(6) 本厚木駅周辺の買物で不満を感じること（B：問 28）

問. 本厚木駅周辺の買物で不満を感じることはありますか。（2つまで）

図 14-6-1 本厚木駅周辺の買物で不満を感じること



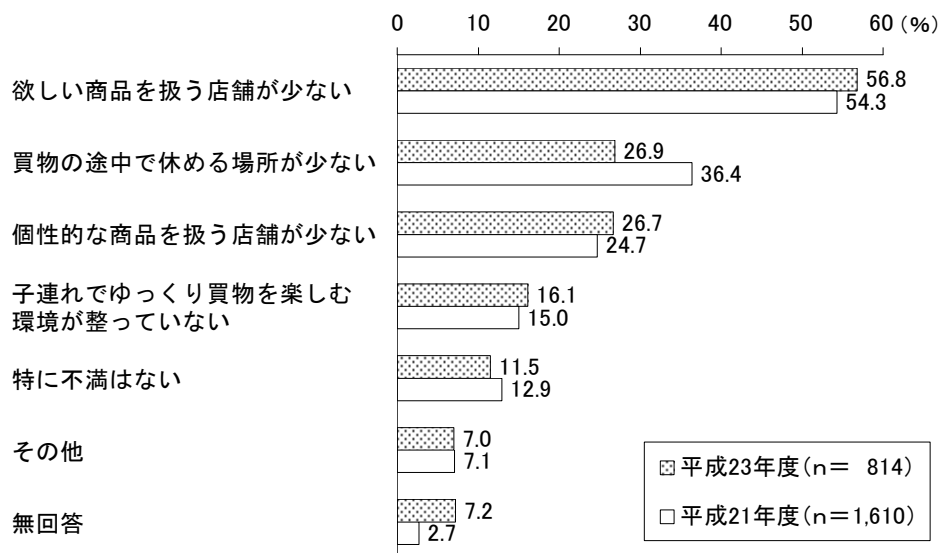
【全体】

本厚木駅周辺の買物で不満を感じることにについて聞いたところ、「欲しい商品を扱う店舗が少ない」（56.8%）が6割近くで最も高くなっている。次いで、「買物の途中で休める場所が少ない」（26.9%）、「個性的な商品を扱う店舗が少ない」（26.7%）、「子連れでゆっくり買物を楽しむ環境が整っていない」（16.1%）となっている。また、「特に不満はない」（11.5%）は1割を超える程度となっている。

【経年変化】

前回調査との比較をみると、「買物の途中で休める場所が少ない」が 9.5 ポイント低くなっている。

図 14-6-2 本厚木駅周辺の買物で不満を感じること—経年変化（2つまでの複数回答）



【属性別】

性別にみると、男性で「個性的な商品を扱う店舗が少ない」（32.4％）が女性より 9.4 ポイント高くなっている。一方、女性で「欲しい商品を扱う店舗が少ない」（58.5％）が男性より 4.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、20 歳代で「欲しい商品を扱う店舗が少ない」（75.4％）が7割半ば、「買物の途中で休める場所が少ない」は 70 歳代（38.1％）が4割近く、80 歳以上（45.8％）が4割半ばで他の年代より高くなっている。また、30 歳代で「子連れでゆっくり買物を楽しむ環境が整っていない」（32.7％）が3割を超え他の年代より高くなっている。

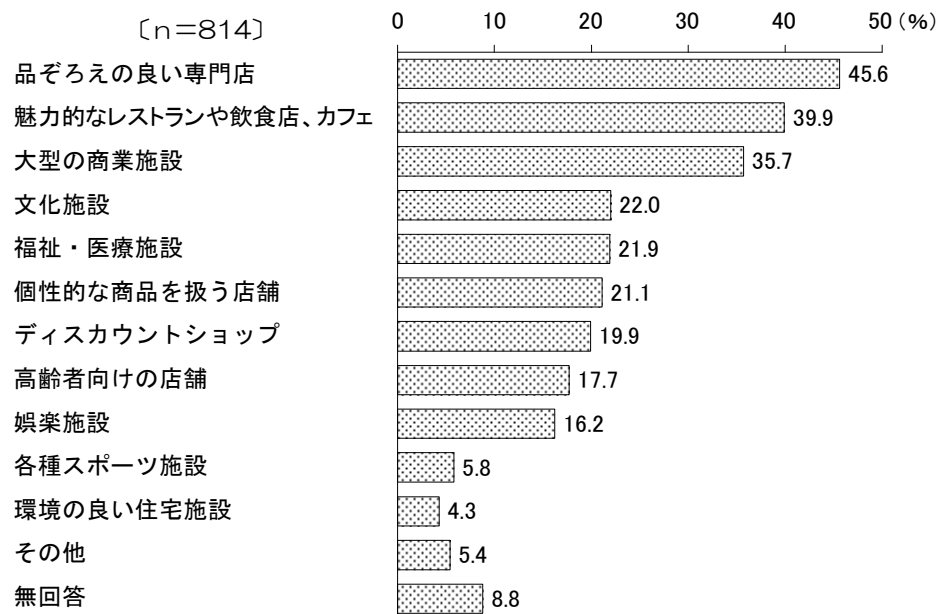
表 14-6-1 本厚木駅周辺の買物で不満を感じること一性別、年齢別（2つまでの複数回答）

		(%)							
		n	欲が 少ない 商品 を扱う 店舗	買場 所が 途 中 で 休 め る	個 店 性 舗 的 が 少 な い 商 品 を 扱 う	子 を い 連 れ し い で む ゆ っ く り 整 つ て 買 物 を す む	特 に 不 満 は な い	そ の 他	無 回 答
全 体		814	56.8	26.9	26.7	16.1	11.5	7.0	7.2
性 別	男 性	336	54.5	26.8	32.4	14.0	11.9	6.8	6.5
	女 性	470	58.5	27.2	23.0	17.9	11.3	6.8	7.4
年 齢 別	20 歳 未 満	12	75.0	25.0	33.3	8.3	—	8.3	16.7
	20 ～ 29 歳	61	75.4	27.9	26.2	16.4	3.3	6.6	4.9
	30 ～ 39 歳	156	57.7	22.4	23.1	32.7	9.0	7.1	5.1
	40 ～ 49 歳	151	60.9	21.9	29.1	18.5	12.6	7.3	4.0
	50 ～ 59 歳	151	63.6	20.5	30.5	11.9	11.9	7.3	6.6
	60 ～ 69 歳	149	47.0	32.9	24.2	9.4	14.1	6.7	10.7
	70 ～ 79 歳	105	46.7	38.1	29.5	7.6	13.3	7.6	9.5
	80 歳 以 上	24	37.5	45.8	16.7	4.2	20.8	—	8.3

(7) 本厚木駅周辺にあればよいと思う施設（B：問 29）

問. 本厚木駅周辺に立地してほしい施設は何ですか。（いくつでも）

図 14-7-1 本厚木駅周辺にあればよいと思う施設



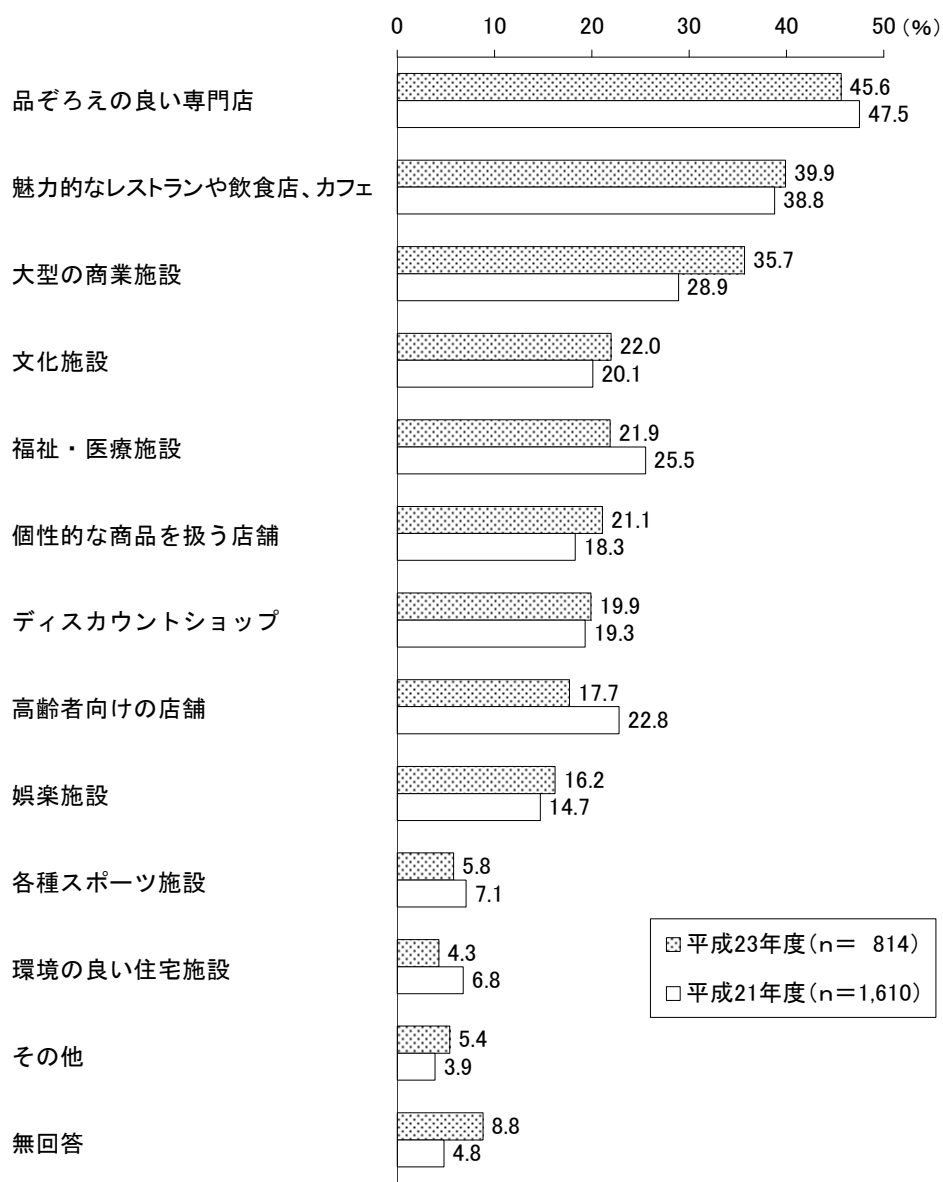
【全体】

本厚木駅周辺にあればよいと思う施設について聞いたところ、「品ぞろえの良い専門店」（45.6%）が4割半ばで最も高くなっている。次いで、「魅力的なレストランや飲食店、カフェ」（39.9%）、「大型の商業施設」（35.7%）、「文化施設」（22.0%）、「福祉・医療施設」（21.9%）となっている。

【経年変化】

前回調査との比較をみると、「大型の商業施設」が6.8ポイント高くなっている。一方、「高齢者向けの店舗」が5.1ポイント低くなっている。

図 14-7-2 本厚木駅周辺にあればよいと思う施設—経年変化（複数回答）



【属性別】

性別にみると、女性で「魅力的なレストランや飲食店、カフェ」（43.6％）が男性より 8.8 ポイント高くなっている。一方、男性で「個性的な商品を扱う店舗」（25.6％）が女性より 7.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、20 歳代で「品ぞろえの良い専門店」（57.4％）が6割近くで他の年代より高く、20 歳代から 40 歳代で「大型の商業施設」（49.2％・47.4％・46.4％）が4割台で他の年代より高くなっている。また、「娯楽施設」はおおむね年代が低くなるにつれて占める割合が高くなる傾向にあり、「高齢者向けの店舗」は年代が高くなるにつれて占める割合が高くなる傾向にある。

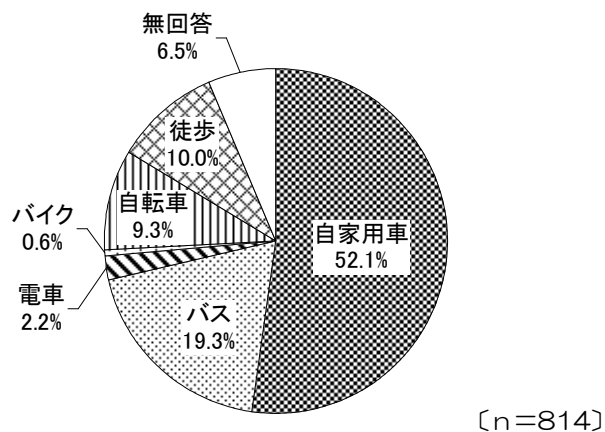
表 14-7-1 本厚木駅周辺にあればよいと思う施設—性別、年齢別（複数回答）

(%)															
		n	品ぞろえの良い専門店	魅力的なレストランや飲食店、カフェ	大型の商業施設	文化施設	福祉・医療施設	個性的な商品を扱う店舗	ディスプレイスカウントショップ	高齢者向けの店舗	娯楽施設	各種スポーツ施設	環境の良い住宅施設	その他	無回答
全 体		814	45.6	39.9	35.7	22.0	21.9	21.1	19.9	17.7	16.2	5.8	4.3	5.4	8.8
性別	男 性	336	45.5	34.8	32.7	24.7	19.6	25.6	17.6	19.0	19.0	5.7	4.5	6.3	8.6
	女 性	470	46.0	43.6	37.9	20.0	23.2	18.1	21.5	16.6	14.5	5.7	4.0	4.9	8.7
年 齢 別	20 歳 未 満	12	58.3	33.3	25.0	25.0	8.3	8.3	25.0	8.3	33.3	8.3	－	－	16.7
	20 ～ 29 歳	61	57.4	47.5	49.2	16.4	13.1	16.4	27.9	4.9	34.4	13.1	8.2	4.9	4.9
	30 ～ 39 歳	156	50.0	38.5	47.4	17.9	14.7	23.1	24.4	6.4	20.5	7.1	3.8	7.1	5.8
	40 ～ 49 歳	151	43.0	35.1	46.4	20.5	19.9	21.9	23.8	7.9	15.2	3.3	2.0	7.3	6.0
	50 ～ 59 歳	151	51.0	49.0	27.8	25.8	27.2	25.2	19.9	13.9	13.2	7.3	7.3	6.0	9.3
	60 ～ 69 歳	149	36.9	40.9	27.5	26.8	24.2	21.5	14.8	26.2	14.1	5.4	3.4	3.4	12.1
	70 ～ 79 歳	105	39.0	36.2	21.9	22.9	29.5	17.1	11.4	41.9	7.6	1.0	3.8	3.8	12.4
	80 歳 以 上	24	45.8	20.8	29.2	12.5	25.0	12.5	12.5	50.0	12.5	4.2	－	4.2	8.3

(8) 本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段（B：問 30）

問. 本厚木駅周辺で買物をするとき、自宅からの交通手段は何ですか。（1つだけ）

図 14-8-1 本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段



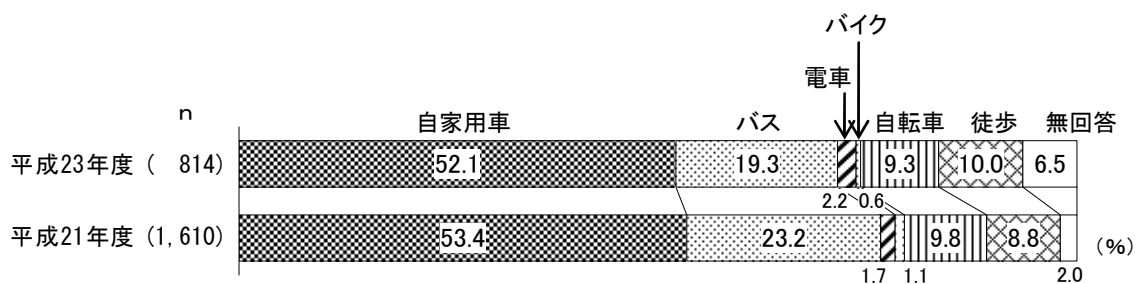
【全体】

本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段について聞いたところ、「自家用車」(52.1%) が5割を超え最も高くなっている。次いで、「バス」(19.3%)、「徒歩」(10.0%)、「自転車」(9.3%)、「電車」(2.2%)、「バイク」(0.6%) となっている。

【経年変化】

経年による大きな差異はみられない。

図 14-8-2 本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段—経年変化

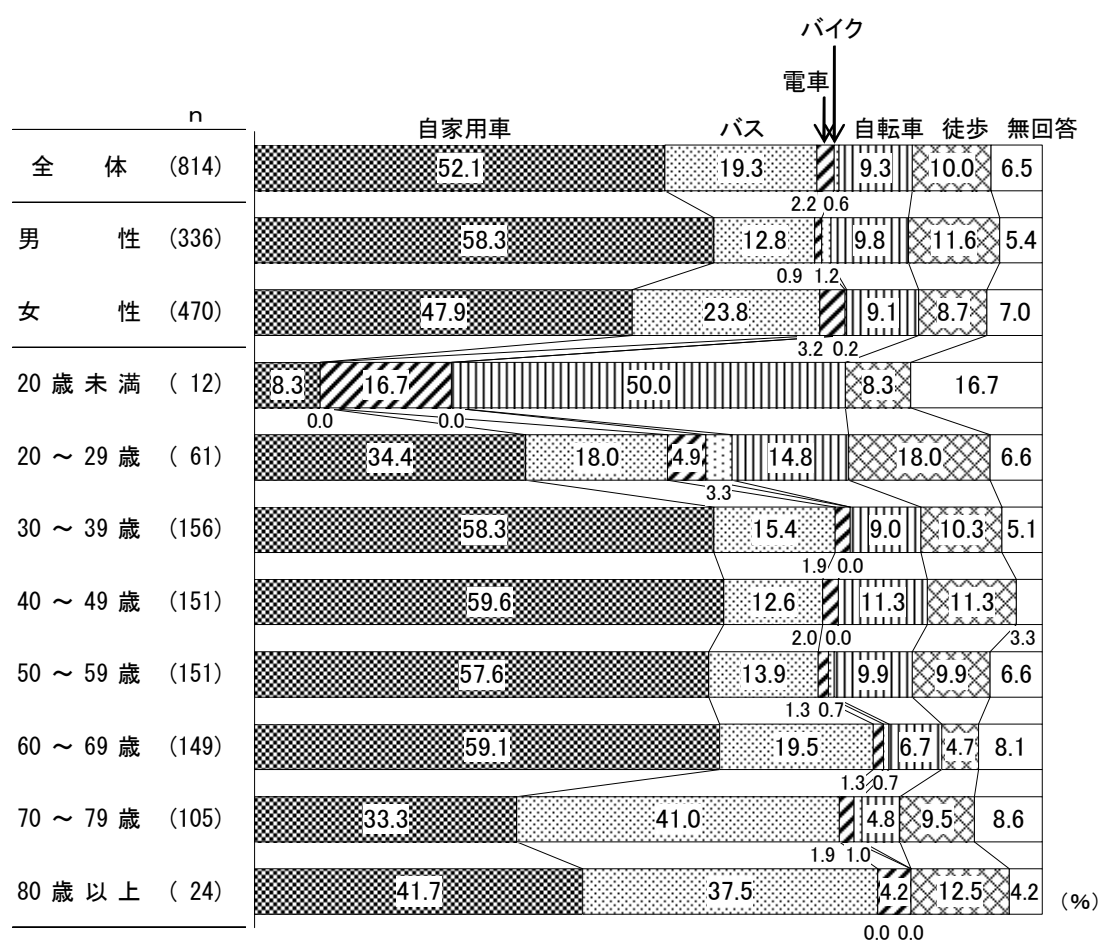


【属性別】

性別にみると、女性で「バス」(23.8%)が男性より11.0ポイント高くなっている。一方、男性で「自家用車」(58.3%)が女性より10.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、30歳代～60歳代の年代で「自家用車」が5割以上と高くなっている。また、「バス」は70歳代(41.0%)がほぼ4割、80歳以上(37.5%)が4割近く、20歳未満で「自転車」(50.0%)が5割、20歳代で「徒歩」(18.0%)が2割近くで他の年代より高くなっている。

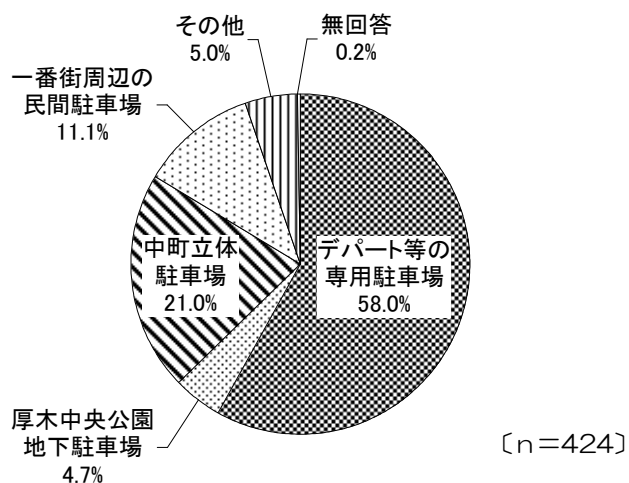
図 14-8-3 本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段一性別、年齢別



(9) 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場（B：問 31）

問. 自家用車とお答えの方にお聞きます。主に利用される駐車場はどこですか。
（1 つだけ）

図 14-9-1 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場



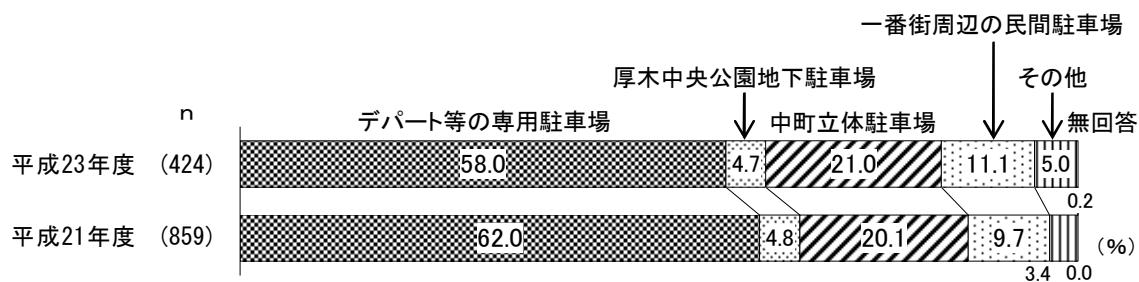
【全体】

本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段で「自家用車」と答えた人（424 人）に主に利用する駐車場について聞いたところ、「デパート等の専用駐車場」（58.0%）が6割近くで最も高くなっている。次いで、「中町立体駐車場」（21.0%）、「一番街周辺の民間駐車場」（11.1%）、「厚木中央公園地下駐車場」（4.7%）となっている。

【経年変化】

前回調査との比較をみると、「デパート等の専用駐車場」が4.0ポイント低くなっている。

図 14-9-2 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場—経年変化

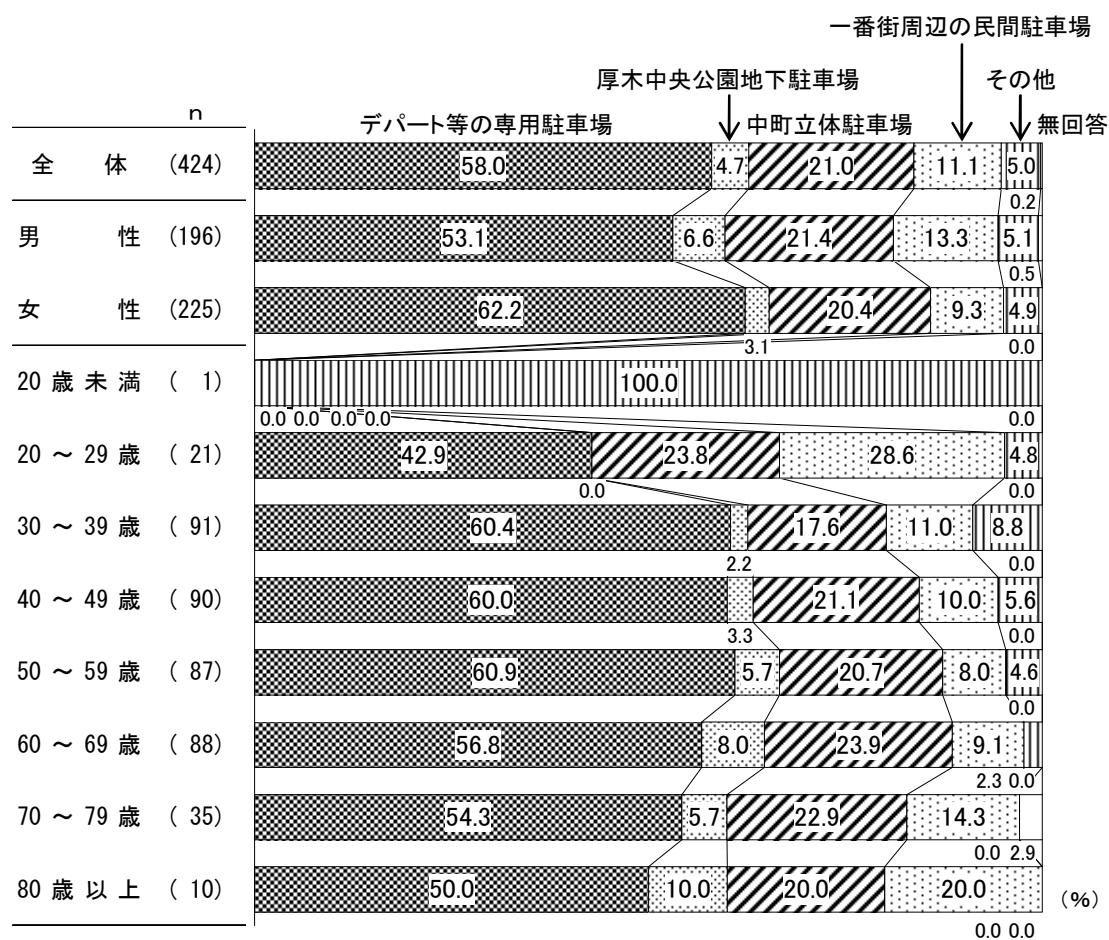


【属性別】

性別にみると、女性で「デパート等の専用駐車場」(62.2%)が男性より9.1ポイント高くなっている。一方、男性で「一番街周辺の民間駐車場」(13.3%)が女性より4.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、30代以上の年代で「デパート等の専用駐車場」が5割以上で高くなっている。

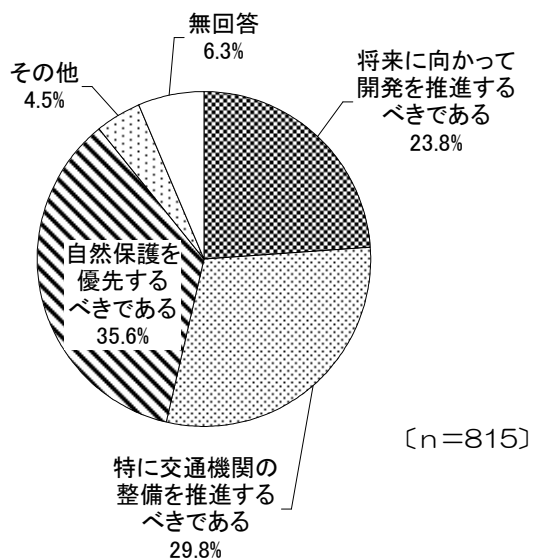
図 14-9-3 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場—性別、年齢別



(10) 市の将来の土地利用（A：問 29）

問. 厚木市の将来的な土地利用についてどう思いますか。（1つだけ）

図 14-10-1 市の将来の土地利用



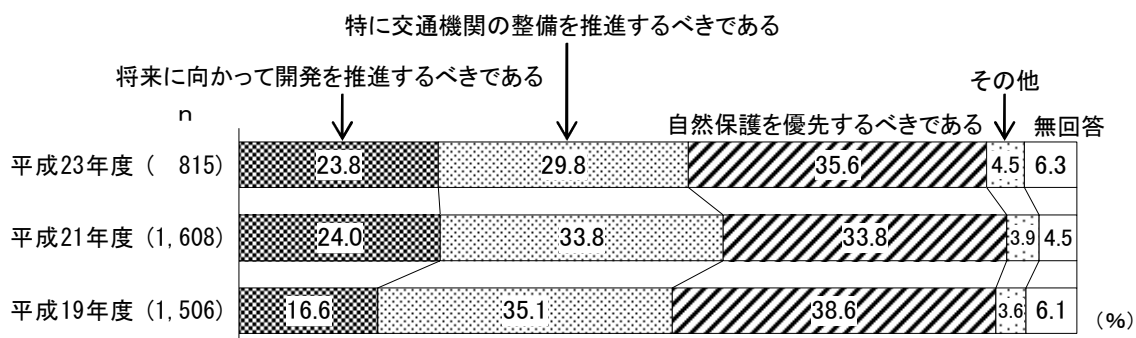
【全体】

厚木市の将来的な土地利用についてどう思うか聞いたところ、「自然保護を優先するべきである」（35.6%）が3割半ばで最も高く、「特に交通機関の整備を推進するべきである」（29.8%）が3割、「将来に向かって開発を推進するべきである」（23.8%）が2割を超えている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、「特に交通機関の整備を推進するべきである」が前回調査より 4.0 ポイント低くなっている。

図 14-10-2 市の将来の土地利用—経年変化

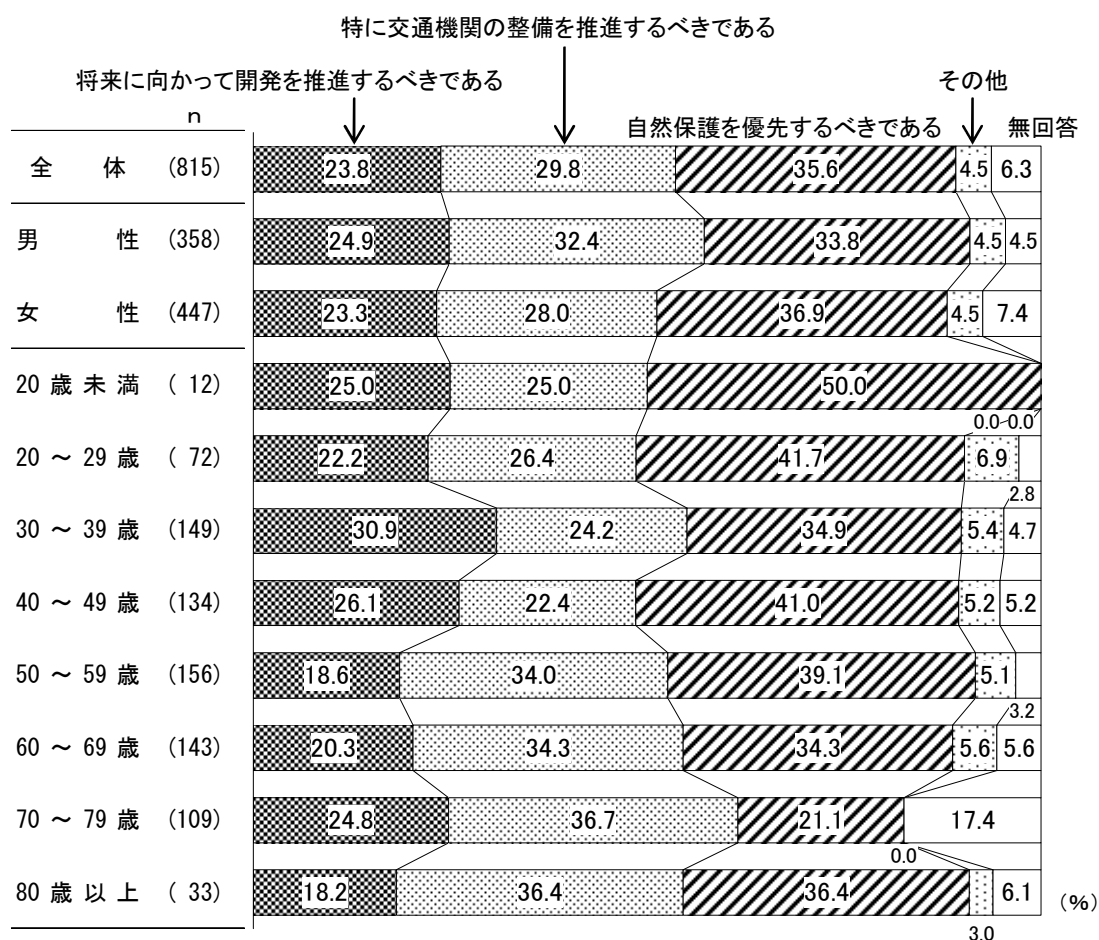


【属性別】

性別にみると、男性で「特に交通機関の整備を推進するべきである」(32.4%) が女性より 4.4 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、70 歳代では「特に交通機関の整備を推進するべきである」が最も高く、50 歳代以下では「自然保護を優先するべきである」が最も高く、60 歳代・80 歳以上では「特に交通機関の整備を推進するべきである」と「自然保護を優先するべきである」が同率となっている。

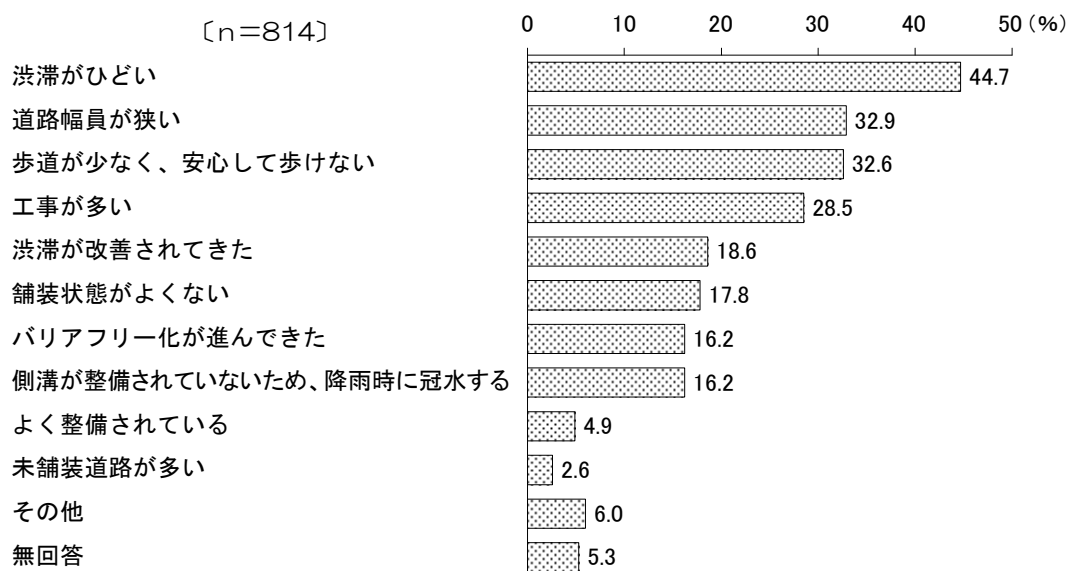
図 14-10-3 市の将来の土地利用—性別、年齢別



(11) 厚木市内の道路の現状（B：問 18）

問. 厚木市内の道路の現状について、どう考えますか。（いくつでも）

図 14-11-1 厚木市内の道路の現状



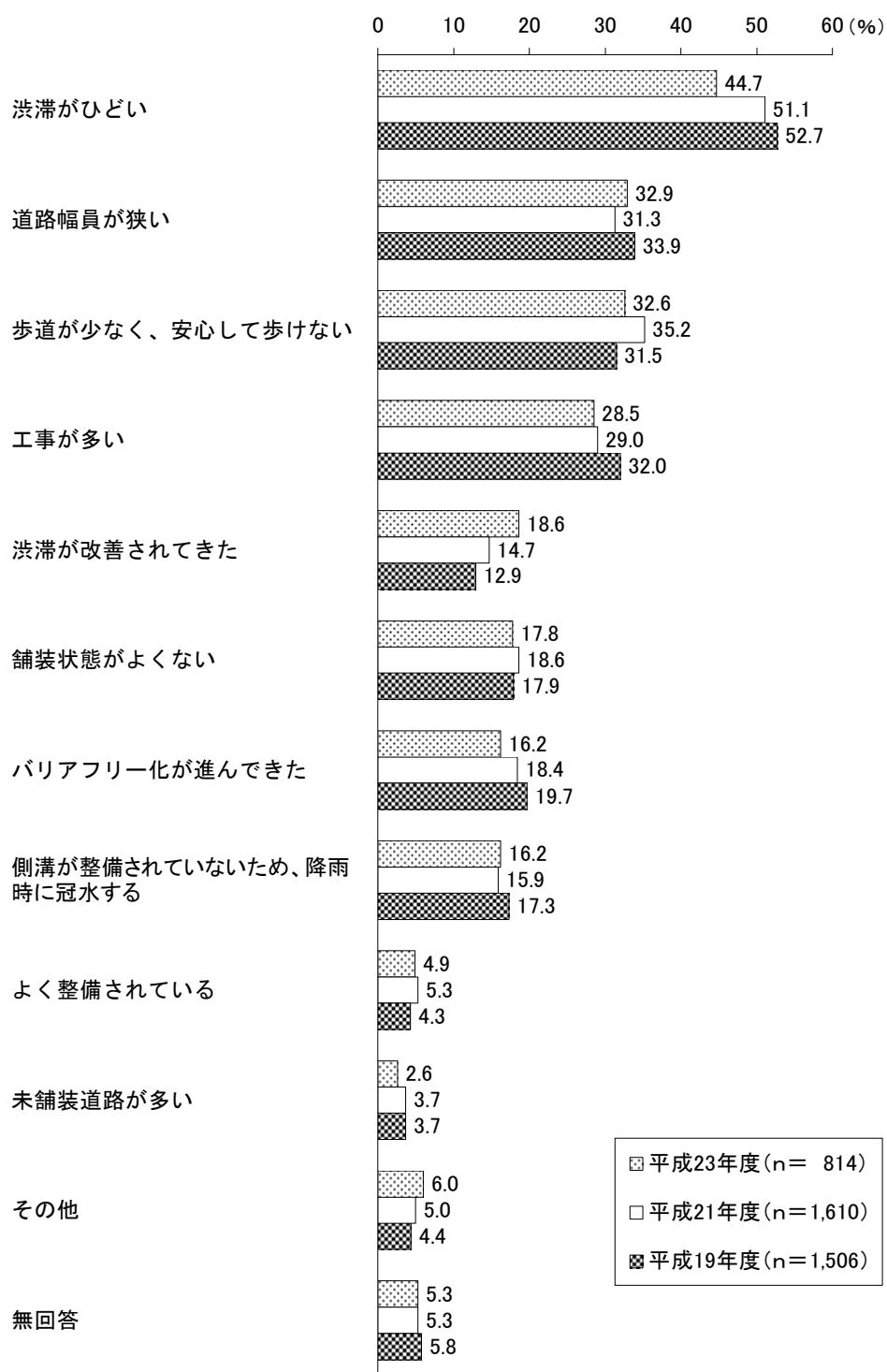
【全体】

厚木市内の道路の現状について聞いたところ、「渋滞がひどい」（44.7％）が4割半ばで最も高くなっている。次いで、「道路幅員が狭い」（32.9％）、「歩道が少なく、安心して歩けない」（32.6％）、「工事が多い」（28.5％）、「渋滞が改善された」（18.6％）、「舗装状態がよくない」（17.8％）となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、「渋滞がひどい」が減少傾向にあり、前回調査より6.4ポイント低くなっている。

図 14-11-2 厚木市内の道路の現状－経年変化（複数回答）



【属性別】

性別にみると、男性で「道路幅員が狭い」（38.4％）が女性より 9.3 ポイント高く、「渋滞がひどい」（49.7％）が女性より 8.6 ポイント高く、「渋滞が改善されてきた」が女性より 5.3 ポイント高くなっている。一方、女性で「工事が多い」（30.9％）が男性より 5.3 ポイント高く、「歩道が少なく、安心して歩けない」（34.7％）が男性より 5.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、70 歳代で「道路幅員が狭い」（42.9％）と「歩道が少なく、安心して歩けない」（41.0％）が4割を超え他の年代より高くなっている。また、50 歳代で「工事が多い」（36.4％）が3割半ばで他の年代より高く、60 歳代で「渋滞が改善されてきた」（25.5％）が2割半ばで他の年代より高くなっている。

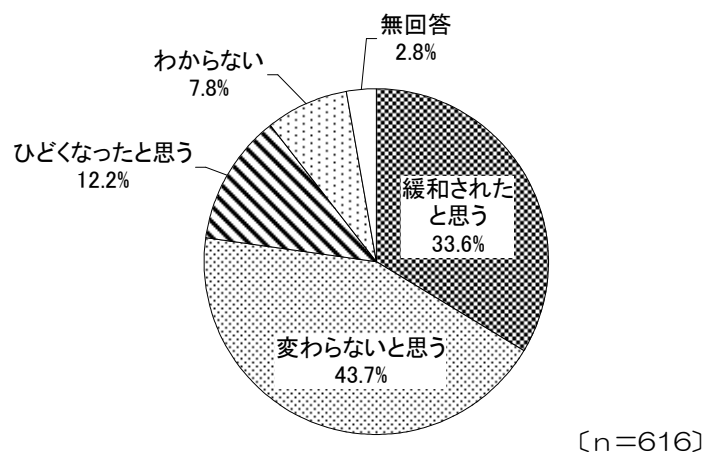
表 14－11－1 厚木市内の道路の現状－性別、年齢別（複数回答）

														(%)
		n	渋滞 がひど い	道路 幅員が 狭い	歩道が 少なく、 安心して 歩けない	工事が 多い	渋滞が 改善され てきた	舗装状 態がよく ない	きたア フリー化 が進んで	ため、降 雨時に冠 水しない	よく整備 されている	未舗装道 路が多い	その他	無回答
全 体		814	44.7	32.9	32.6	28.5	18.6	17.8	16.2	16.2	4.9	2.6	6.0	5.3
性別	男 性	336	49.7	38.4	29.5	25.6	21.7	18.2	15.2	17.3	6.3	2.4	6.3	3.0
	女 性	470	41.1	29.1	34.7	30.9	16.4	17.4	16.6	15.5	4.0	2.8	6.0	7.0
年齢 別	20 歳 未 満	12	8.3	50.0	33.3	16.7	—	16.7	—	8.3	—	—	—	8.3
	20 ～ 29 歳	61	45.9	29.5	21.3	34.4	4.9	21.3	14.8	16.4	3.3	6.6	14.8	4.9
	30 ～ 39 歳	156	50.6	27.6	34.6	23.7	10.9	17.9	9.6	12.8	3.8	4.5	5.8	3.8
	40 ～ 49 歳	151	43.0	32.5	35.8	23.2	18.5	20.5	16.6	15.2	6.6	1.3	7.3	4.0
	50 ～ 59 歳	151	45.7	34.4	27.2	36.4	23.2	16.6	21.2	19.2	1.3	0.7	4.6	4.0
	60 ～ 69 歳	149	40.3	32.9	29.5	30.9	25.5	16.8	20.8	19.5	6.0	3.4	6.0	8.7
	70 ～ 79 歳	105	47.6	42.9	41.0	27.6	22.9	13.3	16.2	14.3	7.6	1.0	3.8	6.7
	80 歳 以 上	24	41.7	20.8	45.8	25.0	25.0	20.8	8.3	16.7	12.5	4.2	—	4.2

(12) 交通渋滞の緩和状況（B：問 19）

問. 10 年前と比べて厚木市内の交通渋滞は緩和されたと思いますか。（1 つだけ）
（厚木市に転入されて 10 年未満の方は、問 20 へお進みください。）

図 14-12-1 交通渋滞の緩和状況



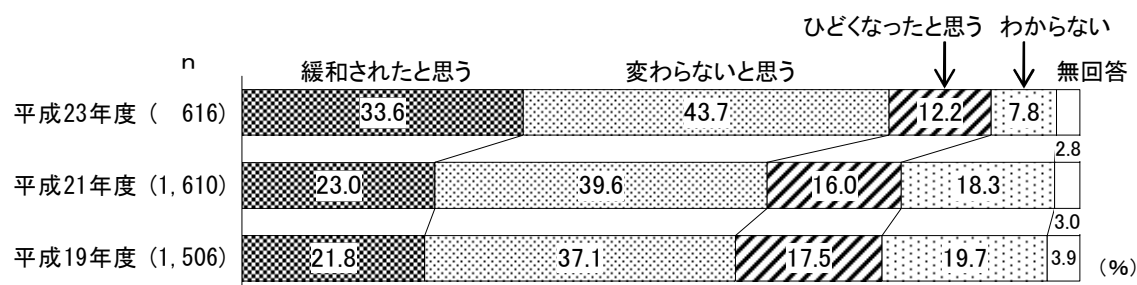
【全体】

厚木市に 10 年以上住んでいる人（616 人）に、10 年前と比べて厚木市内の交通渋滞は緩和されたと思うか聞いたところ、「変わらないと思う」（43.7%）が 4 割を超え最も高く、「緩和されたと思う」（33.6%）が 3 割を超え、「ひどくなったと思う」（12.2%）が 1 割を超えている。

【経年変化】

今回調査より厚木市に 10 年以上住んでいる人に聞いているため、参考に掲載する。

図 14-12-2 交通渋滞の緩和状況－経年変化

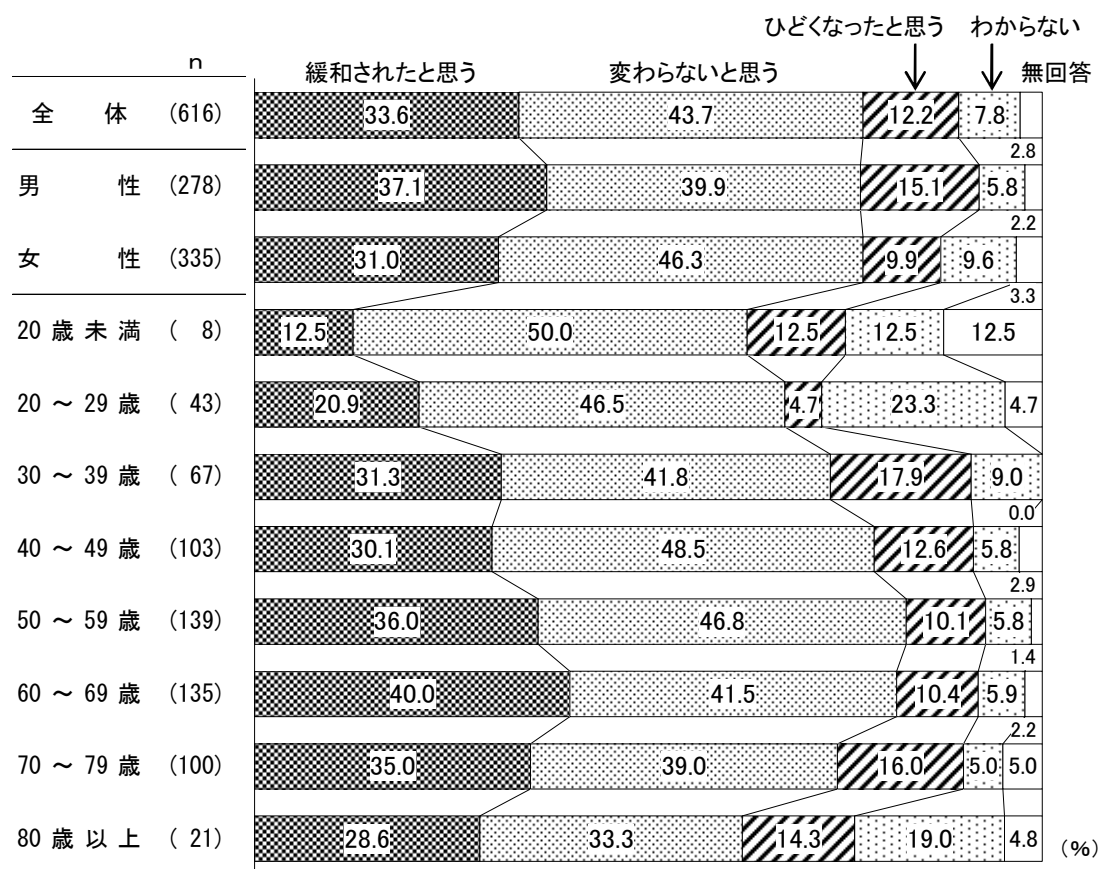


【属性別】

性別にみると、女性で「変わらないと思う」(46.3%)が男性より6.4ポイント高くなっている。一方、男性で「緩和されたと思う」(37.1%)が女性より6.1ポイント高く、「ひどくなったと思う」(15.1%)が女性より5.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、すべての年代で「変わらないと思う」が最も高くなっている。また、20歳代で「わからない」(23.3%)が2割を超え他の年代より高くなっている。

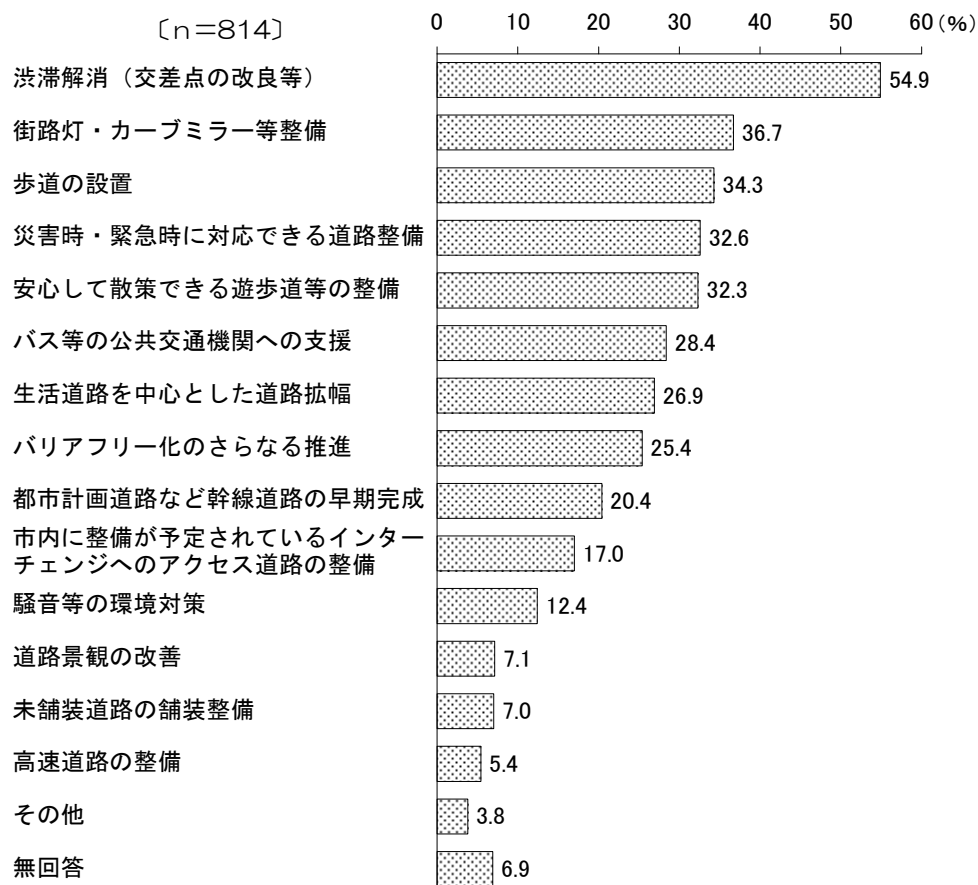
図 14-12-3 交通渋滞の緩和状況—性別、年齢別



(13) 道路整備に望むもの（B：問 20）

問. 厚木市内の道路整備に何を望みますか。（いくつでも）

図 14-13-1 道路整備に望むもの



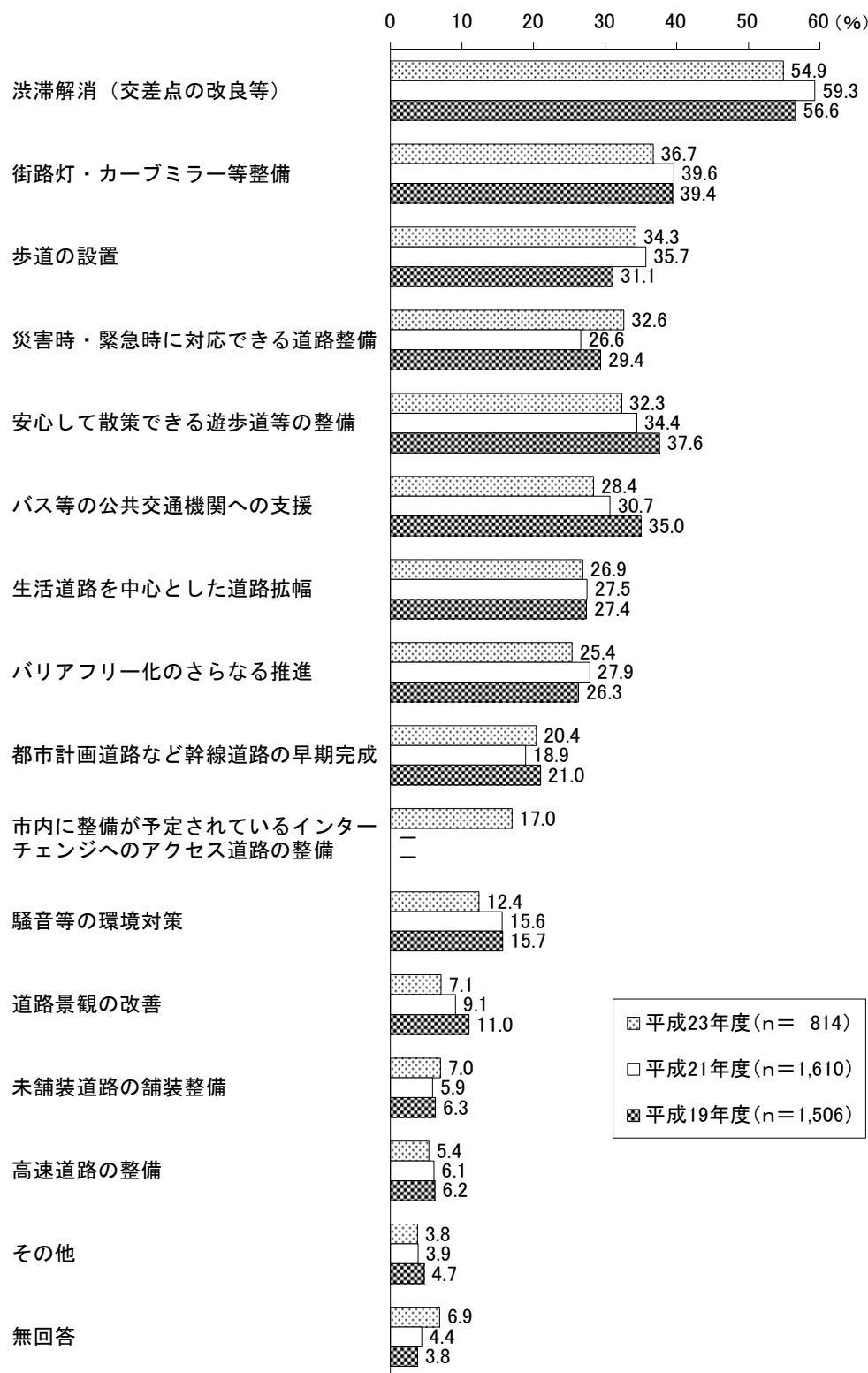
【全体】

厚木市内の道路整備に何を望むか聞いたところ、「渋滞解消（交差点の改良等）」（54.9％）が5割半ばで最も高くなっている。次いで、「街路灯・カーブミラー等整備」（36.7％）、「歩道の設置」（34.3％）、「災害時・緊急時に対応できる道路整備」（32.6％）、「安心して散策できる遊歩道等の整備」（32.3％）、「バス等の公共交通機関への支援」（28.4％）となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、「災害時・緊急時に対応できる道路整備」が前回調査より 6.0 ポイント高くなっている。

図 14-13-2 道路整備に望むもの一経年変化（複数回答）



（注）平成 23 年度調査では、「市内に整備が予定されているインターチェンジへのアクセス道路の整備」が選択肢に追加、平成 19 年度調査では、「わからない」（2.2%）の選択肢が含まれる。

【属性別】

性別にみると、男性で「都市計画道路など完成道路の早期完成」（27.1％）が女性より 11.6 ポイント高く、「市内に整備が予定されているインターチェンジへのアクセス道路の整備」（22.9％）が女性より 9.9 ポイント高く、「高速道路の整備」（10.1％）が女性より 8.0 ポイント高くなっている。一方、女性で「街路灯・カーブミラー等整備」（41.3％）が男性より 10.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、20 歳代・30 歳代・40 歳代で「渋滞解消（交差点の改良等）」（60.7％・64.1％・63.6％）が6割台で他の年代より高くなっている。また、30 歳代で「街路灯・カーブミラー等整備」（46.2％）が4割半ば、40 歳代で「歩道の設置」（44.4％）が4割半ばで他の年代より高くなっている。

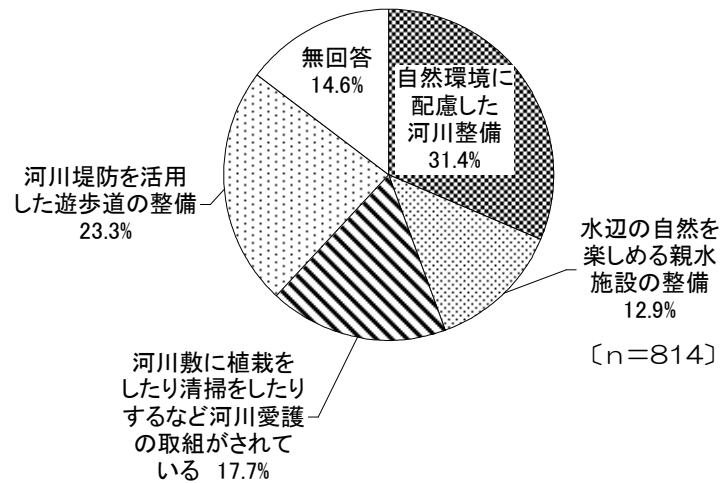
表 14－13－1 道路整備に望むもの－性別、年齢別（複数回答）

(%)																		
																		無回答
		n	渋滞解消（交差点の改良等）	街路灯・カーブミラー等整備	歩道の設置	災害時・緊急時に対応できる道路整備	安心して散策できる遊歩道等の整備	バス等の公共交通機関への支援	生活道路を中心とした道路拡幅	バリアフリー化のさらなる推進	都市計画道路など幹線道路の早期完成	チェンジェへのアクセス道路の整備 市内に整備が予定されているインター	騒音等の環境対策	道路景観の改善	未舗装道路の舗装整備	高速道路の整備	その他	
全 体		814	54.9	36.7	34.3	32.6	32.3	28.4	26.9	25.4	20.4	17.0	12.4	7.1	7.0	5.4	3.8	6.9
性別	男 性	336	58.6	31.3	31.3	28.9	29.2	27.4	29.8	21.7	27.1	22.9	13.7	8.3	6.8	10.1	3.6	6.0
	女 性	470	52.1	41.3	36.4	35.3	34.7	29.1	24.7	27.9	15.5	13.0	11.7	6.4	7.2	2.1	3.8	7.7
年 齢 別	20 歳 未 満	12	25.0	50.0	50.0	25.0	33.3	33.3	33.3	33.3	25.0	8.3	25.0	16.7	-	-	-	-
	20 ～ 29 歳	61	60.7	37.7	27.9	31.1	31.1	26.2	27.9	24.6	23.0	16.4	16.4	14.8	16.4	6.6	3.3	1.6
	30 ～ 39 歳	156	64.1	46.2	39.1	34.6	38.5	34.0	22.4	25.0	18.6	22.4	10.9	7.7	12.8	5.8	1.9	3.2
	40 ～ 49 歳	151	63.6	39.1	44.4	38.4	27.8	27.8	33.8	25.2	18.5	13.2	19.2	4.6	4.0	5.3	4.0	4.6
	50 ～ 59 歳	151	54.3	37.7	31.1	36.4	33.8	29.8	25.8	26.5	17.2	17.2	13.2	11.3	4.6	4.0	4.0	8.6
	60 ～ 69 歳	149	46.3	32.9	27.5	29.5	30.9	26.8	26.2	25.5	24.8	17.4	10.1	3.4	5.4	6.0	3.4	8.7
	70 ～ 79 歳	105	46.7	27.6	29.5	25.7	31.4	21.9	27.6	24.8	22.9	17.1	5.7	4.8	3.8	6.7	5.7	12.4
	80 歳 以 上	24	33.3	16.7	33.3	16.7	29.2	25.0	16.7	20.8	12.5	8.3	4.2	4.2	8.3	4.2	8.3	16.7

(14) 河川環境の整備状況（B：問22）

問. 河川環境の整備がされていると思うと感じることは何ですか。（1つだけ）

図 14-14-1 河川環境の整備状況



【全体】

河川環境の整備状況について聞いたところ、「自然環境に配慮した河川整備」（31.4%）が3割を超え最も高く、「河川堤防を活用した遊歩道の整備」（23.3%）が2割を超え、「河川敷に植栽をしたり清掃をしたりするなど河川愛護の取組がされている」（17.7%）が2割近く、「水辺の自然を楽しむ親水施設の整備」（12.9%）が1割を超えている。

【経年変化】

新規設問のため、経年変化はなし。

【属性別】

性別にみると、男性で「河川堤防を活用した遊歩道の整備」（26.2%）が女性より 4.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、60 歳代では「自然環境に配慮した河川整備」と「河川堤防を活用した遊歩道の整備」が同率で最も高く、それ以外の年代では「自然環境に配慮した河川整備」が最も高くなっている。

図 14-14-2 河川環境の整備状況—性別、年齢別

